

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 聖徳大学

1. 事業名称

振り返り評価を重視した Can-do 型学習の施行事業

2. 事業の目的

- ① 外国人の生活行動から離れた形式的文法説明に終始せず、Can-do の理念を柱とした実践的な指導法を研修する。
- ② ポートフォリオの概念のうち、学習者の評価とともに、それによって教師の指導力をも評価し得るシステムを構築する方法を検討し、地域日本語教室に広く提言していく。

3. 事業内容の概要

昨年度に本学が実施した文化庁日本語教育委託事業(Can-do 型授業活動を実現するための実践研修講座)などをきっかけとして、近年、千葉県東葛地域(松戸市、柏市等)のボランティア日本語教室では従来の形式的文型指導から「外国人の生活の支え得る日本語教育」に転換していこうとする機運が見られる。ただし、多くの指導者にとっては、こうした発想や指導のやり方は初めてであり、不安や誤解なども少なからず生じている。

本事業では、その指導法の補充、補強をおこなうとともに、日本語ボランティアなどでこれまでほとんどおこなわれてこなかった「学習者の語学力評価」「教師の指導力評価」双方のシステムを構築する方法を検討し、現状にあって無理なく実施できる具体的な施策を提言、確立していくことを事業の眼目としたい。

なお、本事業計画のうち、「日本語教室の設置・運営」に関しては、東葛地域の3つの日本語教室と連携し、本事業のための Can-do 型日本語教室を立ち上げて実施することにした。あえて、地域が異なる3つのグループに教室の設置を計画する理由は、① 本事業を地域と連携しておこない、その趣旨をより広域に理解してもらうため ② 複数の教室が同じ趣旨で授業活動をおこなった結果の異同を観察するため ③ 全授業終了後、各教室の教師がそれぞれの活動経緯について情報交換し、問題意識を共有するため、の3点である。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年 7月11日 15:00～ 17:30	2.5時間	聖徳大学 8701会議室	北村 弘明 遠藤 尚子 齋藤 克人 坂上 久仁子 西澤 清江 真鍋 昌子 藤沢明美(コーディネーター)	1. 委員の紹介 2. 委託事業の実績報告 3. 今年度の委託事業説明 4. 質疑応答	1. 運営委員の自己紹介。 2. これまでの実績報告:平成20年度～平成23年度の報告。 3. ①講座「Can-do型授業におけるポートフォリオの運用研修講座」目的、目標など。 ②教室運営について「松戸市、鎌ヶ谷市、取手市の3会場でCan-do型授業の取り組み」等。 ③教材作成について「3会場の授業内容をまとめて報告書を作成する」。 4. 今後の業務計画、実施手順についての検討。
2	平成24年 7月19日 15:00～ 18:00	3時間	聖徳大学 7132会議室	北村 弘明 遠藤 尚子 齋藤 克人 坂上 久仁子 西澤 清江 真鍋 昌子 藤沢明美(コーディネーター)	1. 講座内容について 2. 講座作業について 3. 日本語教室について 4. 教材作成について	1. 講座カリキュラムと講師、講師補助者、時間、会場の確認。 2. ①応募内容及び記述内容の検討。 ②広報先(各市の国際交流協会、教育委員会、日本語教室及び昨年度講座申込み者)、採択人数、締切日、選定方法、採択通知などの検討、確認。 3. 松戸市、鎌ヶ谷市、取手市3会場の日本語教室の講師依頼の確認と場所、回数等確認。 4. 教材作成のため、各教室からの報告書の検討。

3	平成24年 8月10日 15:00～17:30	2. 5 時間	松戸ビル 4F 国際友好ルーム	北村 弘明 遠藤 尚子 齋藤 克人 坂上 久仁子 西澤 清江 真鍋 昌子 藤沢明美(コーディネーター)	1. 講座の応募者確認と受講者選定の確認 2. 講座の内容確認と業務担当確認 3. 講座の講師確認 4. その他	1. ①応募者の記述内容を確認の上、全員採択することに決定。(会場の収容人数が可能であったため) ②採択通知発送の確認。 ③名簿と出席簿の作成の確認。 2. 講座カリキュラムの確認。業務担当(受付、講座記録、レポート集計、諸連絡、会場整備、初日会場案内等)の確認。 3. 講師の確認と講師及び講師補助との諸連絡事項の報告。 4. 締め切りを過ぎての申込み者について。会場の収容人数が可能であれば、ぎりぎりまで受け付けることを確認。
4	平成24年 8月25日 13:00～16:00	3時間	聖徳大学 3319研究室	北村 弘明 遠藤 尚子 齋藤 克人 坂上 久仁子 西澤 清江 真鍋 昌子 藤沢明美(コーディネーター)	1. 講座開催確認事項 2. 最終講座受講人数 3. 日本語教室3会場の日程及び今後の予定 4. その他	1. 8月25日スタートの確認。役割分担の確認。・講師との連絡事項の確認。受講者からの問い合わせ事項の報告と確認。(会場の場所、時間、欠席連絡等) 2. 受講者の確認。(計37名、我孫子市、柏市、鎌ヶ谷市、野田市、松戸市、茨城県取手市) 3. ①日本語教室開催日程の確認。(鎌ヶ谷市:講師3名、9月25日～、鎌ヶ谷市中央公民館にて。取手市:講師3名、9月7日～、取手市福祉交流センター他にて。松戸市:講師3名、9月20日～、松戸ビル4F国際友好ルームにて。) ②各教室、各日報告書作成の確認。 ③3教室との広報の仕方、カリキュラムなどの打ち合わせの内容を報告。 4. 運営委員視察の検討、日程調整他。

5	平成24年 9月8日 13:00～ 16:00	3時間	聖徳大学 3319研究室	北村 弘明 遠藤 尚子 齋藤 克人 坂上 久仁子 西澤 清江 真鍋 昌子 藤沢明美(コーディネーター)	1. 受講者及び出席者の確認 2. 第1回目を終えた報告 3. 今後についての確認 4. その他	1. 講座受講者が予定通り37名でスタートしたことを報告。(休みの連絡もあった) 2. 第1回目終了の報告と問題点の検討。(受講者がとても熱心で、今回の講座に期待している受講者が多いと感じた。 3. ①担当、役割分担の再確認。担当が都合が悪い時は早めに連絡することを確認。 ②配付資料がある場合は、講師に早めの連絡を依頼することを確認。
6	平成24年 11月11日 15:30～ 19:00	3.5時間	鎌ヶ谷市 中央公民館内	北村 弘明 遠藤 尚子 齋藤 克人 坂上 久仁子 西澤 清江 真鍋 昌子 藤沢明美(コーディネーター)	1. 日本語教室を視察しての感想 2. 講座の報告と確認 3. 今後の予定 4. その他	1. ①松戸教室を視察しての感想と鎌ヶ谷教室について報告。 ②それぞれに工夫して取り組んでいる。 ③教案は3クラス一緒であるが、教え方を学習者のレベルに合わせている。 ④振り返りシートも各教室作成し、行っているが、学習者のレベルによって、変えた方が良いという意見が出された。 2. ①講座は順調に進んでいる。出席率も良いとの報告。 ②講師への質問をレポートに書いてもらっているが、その回答の仕方を検討。 3. 講座の記録、日本語教室の記録を随時まとめることを確認。 4. 教材作成について(各教室から上がってきた授業報告を少しずつまとめることを確認)

7	平成24年 11月21日 15:00～18:00	3時間	聖徳大学 7132会議室	北村 弘明 遠藤 尚子 齋藤 克人 坂上 久仁子 西澤 清江 真鍋 昌子 藤沢明美(コーディネーター)	1. 講座の報告 2. 講座の最終日の確認 3. 日本語教室の報告 4. その他	1. ①受講者の休みが少なく出席率が良いことを報告。 ②休んだ人への資料配布についての確認。 ③毎回のレポートは全員提出しているが、時折何かが書いてあるのか理解できないもの、字が読めないものがあることが報告された。なるべくきちんと箇条書きにしてもらうように言うことを確認する。 ④講師への質問に対して、どのように返していくかについて、各講師からの返答を待ち、まとめて伝えることにする。 ⑤グループディスカッションは初めての人と仲良くなれるきっかけにもなって良いとの報告。 2. ①出席者の確認。 ②最終日に10回以上の出席者に対し修了書を配布することを確認する。 3. 日本語教室の報告。
8	平成24年 12月2日 12:00～14:30	2.5時間	取手市 福祉交流センター内	北村 弘明 遠藤 尚子 齋藤 克人 坂上 久仁子 西澤 清江 真鍋 昌子 藤沢明美(コーディネーター)	1. 日本語教室を視察しての感想 2. 講座の報告と確認 3. その他	1. ①取手教室を視察しての感想。 ②取手教室の講師が感じる難しい点、学習者の様子などの報告。 ③3クラス、それぞれの講師が学習者に合わせて教案や振り返りシートを作成していること。また、漢字を教えてほしい学習者の希望にどこまでどう答えるかの意見交換をした。 2. 最終日についての確認。(最終日休みの人への対応を検討) 3. その後のまとめ作業の確認

9	平成25年 1月16日 15:00～ 18:00	3時間	聖徳大 学 10号館 5階教室	北村 弘明 遠藤 尚子 齋藤 克人 坂上 久仁子 西澤 清江 真鍋 昌子 藤沢明美(コ ーディネータ ー)	1. 講座の報告 2. 日本語教室の 報告 3. 教材作成の報 告 4. その他	1. ①講座終了の報告。 ②レポートの裏に本講座への感想、意 見を記入してもらったことの報告 ③まとめ作業報告。 2. ①日本語教室報告のまとめ作業の 確認。 ②文化庁からの連絡で、各クラスの人 数の制限があることから、再度各回の 人数をはっきりさせるよう指示する。 3. 日本語教室の3会場の報告をまと める作業に入ったことを報告。
10	平成25年 2月6日 15:00～ 17:30	2.5時 間	聖徳大 学 3319研 究室	北村 弘明 遠藤 尚子 齋藤 克人 坂上 久仁子 西澤 清江 真鍋 昌子 藤沢明美(コ ーディネータ ー)	1. 全体の感想、課 題 2. 教材作成の報 告 3. その他	1. ①講座についての感想と課題。(受 講者の様子や出席状況、講師、回数、 時間、会場、担当役割、レポートについ て等) ②日本語教室の感想と課題。(3 会場 で特色があり、教え方や提示の仕方に 難があると思われるが、概ね良かった との意見が出された。) ③経費との整合性を確認。 2. 教材作成の進捗状況についての報 告

【写真】（運営委員会）



5. 日本語教室の設置・運営

※講座名称および目的・目標については、以下の3教室で共通。

【松戸教室】

- (1) 講座名称 生活行動を実現するための日本語教室
～「振り返りシート」を活用した Can-do 型授業活動～
- (2) 目的・目標
 - ① 構文の形式的な学習に偏重せず、在住外国人の生活行動を支える会話表現を指導する。
 - ② 単に会話文の意味表現を学習するのではなく、その表現で何が出来るようになったか、その成果を確認させる。
- (3) 対象者
来日後、短期間しか経ていない地域在住の外国人(原則として6ヶ月未満。国籍・年齢は問わない)
- (4) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)
1回2時間×10回×3クラス(A・B・C)
- (5) 使用した教材・リソース
文化庁『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』や『教材例集』などを参考に各教室ごとに担当者が毎時作成。

(6) 受講者の総数 32 人

(出身・国籍別内訳

中国 19人、タイ 3人、コートジボアール 1人、サモア 1人、
韓国 1人、アメリカ 1人、台湾 1人、カンボジア 1人、ネパール 1人、ベトナム
1人、メキシコ 1人、ニュージーランド 1人)

(7) 受講者の募集方法

聖徳大学広報／東葛地域の各市国際交流協会、教育委員会、日本語教室などに案内
書郵送(HP による募集を含む)。以下のチラシなどを使用。

■日本語教室の募集用チラシ

文化庁日本語教育委託事業
聖徳大学 連携
Japanese class

Can-do
にほんごきょうしつ
日本語教室
生活重要日常会話
Essential conversation of daily life
生活に役立つ日本語を学習します。

まつときょうしつ かまがやきょうしつ とりできょうしつ
松戸教室／鎌ヶ谷教室／取手教室

☆ 地震・事故の時／電車・タクシーに乗る／薬のこと／etc.
☆ 2012年9月～(各教室で異なります)
☆ 無料
☆ 詳しくは下記教室までお問い合わせください

松戸教室	matsudo.jp@goo.jp(まなべ)
鎌ヶ谷教室	gonetsuko@adagio.ocn.ne.jp(たかの)
取手教室	http://www.nihongo-toride.org/問い合わせ/

(8) 日本語教室の具体的内容

【松戸教室】

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1A	平成24年9月20日 13:30～15:30	2時間	12人	中国(8人)、コートジボワール(1人)、サモア(1人)、韓国(1人)、アメリカ(1人)	薬局で薬を買う	①すみません。(発信) ②～が痛いんですが…。(発信) ③～はいかがですか。(受信)
1B	平成24年9月20日 13:30～15:30	2時間	10人	タイ(1人)、台湾(1人)、カンボジア(1人)、ネパール(1人)、中国(5人)、ベトナム(1人)	薬局の場所を尋ねる 薬局で薬を買う	①薬局はどこにありますか。(発信) ②薬局は行病院の～にあります。(受信) ③～なんですが、どんな薬がいいですか。(発信) ④この～はいかがですか。(受信)
1C	平成24年9月20日 13:30～15:30	2時間	10人	中国(6人)、タイ(2人)、メキシコ(1人)、ニュージーランド(1人)	薬局の場所を尋ねる 薬局で薬を買う	①～はどこにありますか。(発信) ②～は～にあります。(受信) ③この薬は～に～飲んでください。(受信) ④～？(発信) ⑤～んですが、どんな薬がいいですか。(発信) ⑥～はいかがですか。(受信)
2A	平成24年9月27日 13:30～15:30	2時間	9人	中国(5人)、コートジボワール(1人)、サモア(1人)、韓国(1人)、アメリカ(1人)	事故に備え対応する	①助けて！(発信) ②どうしたんですか。(受信) ～をとられました。(発信) ③～を教えてください。(受信) ④～です。(発信) イラストを使いながら使い方を会話例(スキット)を教師が提示する
2B	平成24年9月27日 13:30～15:30	2時間	10人	タイ(1人)、台湾(1人)、カンボジア(1人)、ネパール(1人)、中国(5人)、ベトナム(1人)	事故に備え対応する	①ドロボー！(注目要求) ～をとられたんです。(情報提供) ②～をぬすまれたんです。(情報提供) ③～があります。～が見えます。(情報提供)
2C	平成24年9月27日 13:30～15:30	2時間	9人	中国(5人)、タイ(2人)、メキシコ(1人)、ニュージーランド(1人)	事故に備え対応する	①どろぼー！(発信) ②～んです。(発信) ③～られた。(発信) ④～があります。(発信) ⑤～が見えます。(発信)
3A	平成24年10月11日 13:30～15:30	2時間	11人	中国(8人)、コートジボワール(1人)、サモア(1人)、韓国(1人)	人数、禁煙・喫煙の希望を伝えられる メニューを読み、注文する。	①何名様ですか。(受信) ②〇人です。(発信) ③喫煙ですか、禁煙ですか。(受信) ④〇〇です。(発信) ⑤〇〇はまだですか。(発信) ⑥〇〇を頼んだんですが。(発信) ⑦〇〇は入っていますか。(発信)
3B	平成24年10月11日 13:30～15:30	2時間	8人	台湾(1人)、カンボジア(1人)、ネパール(1人)、中国(5人)	銀行口座を作る 銀行を利用する	①～たいんですか。 ②ちょっとわからないんですか。 ③～ていただけませんか。
3C	平成24年10月11日 13:30～15:30	2時間	9人	中国(5人)、タイ(2人)、メキシコ(1人)、ニュージーランド(1人)	銀行口座を作る 銀行を利用する	①口座を作りたいんですが。(発信) ②ちょっとわからないんですが。(発信) ③ご本人様を確認できるものを何かお持ちですか。(受信) ④こちらの用紙にご記入ください。(受信) それぞれの文型を以下の会話例(スキット)の中で教師が提示し、その運用法を示す。
4A	平成24年10月18日 13:30～15:30	2時間	7人	中国(4人)、サモア(1人)、韓国(1人)、アメリカ(1人)	電車に乗る	①〇〇はどう行ったらいいですか。(発信) ②〇〇は何番線ですか。(発信) ③〇〇はどこですか。(発信)改札口をでて右ですよ。(受信) ④この電車は〇〇へ行きますか。(発信)
4B	平成24年10月18日 13:30～15:30	2時間	7人	タイ(1人)、台湾(1人)、カンボジア(1人)、ネパール(1人)、中国(2人)、ベトナム(1人)	タクシーを利用する 徒歩で移動する	①すみません、～乗り場はどこですか。(発信) ②～までお願いします。(発信) ③～てください。(発信) ④～お願いします。(発信) ⑤～に行きたいんですが。(発信)
4C	平成24年10月18日 13:30～15:30	2時間	6人	中国(3人)、タイ(1人)、メキシコ(1人)、ニュージーランド(1人)	タクシーを利用する 徒歩で移動する	【タクシーに乗る時】 ①すみません、〇〇まで お願いします。(発信) ××を曲がってください。そこで お願いします。 【店などで】 ②すみません、タクシーを呼んでいただけませんか。(発信) 【家から電話で】 ③タクシーを1台お願いします。(発信) 【乗り場の場所を聞く】 ④タクシー乗り場はどこですか。(発信) 【道を聞く】 ⑤〇〇へ行きたいんですが、どうやって行ったらいいですか。(発信)

5A	平成24年10月25日 13:30～15:30	2時間	6人	中国(3人)、コートジボワール(1人)、サモア(1人)、韓国(1人)	試着を申し出る、色・サイズ違いのものを頼む	①これの〇〇〇はありますか。(発信) ②はい、こちらです。(受信) ③じゃ、これにします。(発信) ④ほかのも見てみます。(発信) ⑤試着してもいいですか。(発信) ⑥もうすこし〇〇してください。(発信) ⑦もうすこし〇〇のはありますか。(発信)
5B	平成24年10月25日 13:30～15:30	2時間	7人	タイ(1人)、カンボジア(1人)、中国(4人)、ベトナム(1人)	レンタルショップで借りる 伝言を頼む	①1泊2日をお願いします。(発信) ②～はありますか。(発信) ③～と申しますが、〇〇さんはいらっしゃいますか。(発信) ④伝言をお願いします。～とお伝えください。(発信)
5C	平成24年10月25日 13:30～15:30	2時間	7人	中国(5人)、タイ(1人)、メキシコ(1人)	レンタルショップで借りる 伝言を頼む	①お願いします。(発信) ②何泊になさいますか。(受信) ③～でお願いします。(発信) ④もしも、〇〇と申しますが、XXさん、いらっしゃいますか。(発信) ⑤では、のちほどお電話さしあげます。(発信) ⑥それでは、伝言をお願いできますか。(発信) ⑦〇〇と申しますが、XXさんのお宅ですか。(発信)
6A	平成24年11月1日 13:30～15:30	2時間	7人	中国(3人)、コートジボワール(1人)、サモア(1人)、韓国(1人)、アメリカ(1人)	災害に備え、対応する	①(避難場所)はどこですか。(発信) ②(食べ物)はどこでもらえますか。(発信) ③(中国語)がわかるひとはいいますか。(発信)
6B	平成24年11月1日 13:30～15:30	2時間	7人	タイ(1人)、台湾(1人)、カンボジア(1人)、ネパール(1人)、中国(3人)	災害に備え、対応する	①助けて。(発信)危ない。(受信)逃げろ。(受信) ②すみません、～はどこですか。(情報要求) ③すみません、～はどこでもらえますか。(情報要求) ④すみません、何と言っていますか。(情報要求) ⑤災害のためにどんなものを準備しておけばいいですか。(情報要求)
6C	平成24年11月1日 13:30～15:30	2時間	6人	中国(4人)、メキシコ(1人)、ニュージーランド(1人)	災害に備え、対応する	①避難場所はどこですか。(発信) ②どこにありますか。(発信)
7A	平成24年11月8日 13:30～15:30	2時間	7人	中国(5人)、サモア(1人)、韓国(1人)	誘う	①〇〇は好きですか。(発信) ②今度一緒に〇〇に行きませんか。(受信) ③今度一緒に〇〇を△△に行きませんか。(発信) ④いつ〇〇ですか。(発信) ⑤〇〇はどうですか。(発信)
7B	平成24年11月8日 13:30～15:30	2時間	6人	台湾(1人)、カンボジア(1人)、中国(3人)、ベトナム(1人)	誘い・断り	①ご飯を食べに行きませんか。(発信) ②今晚皆で飲みに行くんですけど、〇〇さんも一緒に行きませんか。(発信) ③今晚はちょっと、用事があるって…。(発信) ④今度の日曜日はどうですか。(発信) ⑤お茶でも飲んでいきませんか。(発信)
7C	平成24年11月8日 13:30～15:30	2時間	6人	中国(3人)、タイ(1人)、メキシコ(1人)、ニュージーランド(1人)	誘い・断り	①ご飯を食べに行きませんか。(発信) ②今晚皆で飲みに行くんですけど、〇〇さんも一緒に行きませんか。(発信) ③今晚はちょっと、用事があるって…。(発信) ④今度の日曜日はどうですか。(発信) ⑤お茶でも飲んでいきませんか。(発信) それぞれの文型を以下の会話例(スキット)の中で教師が提示し、その運用法を示す。
8A	平成24年11月15日 13:30～15:30	2時間	7人	中国(5人)、サモア(1人)、韓国(1人)	クラス活動「人を誘う」	①～へ行きます。 ②いつですか。 ③どこですか。 ④△△です。 ⑤〇時です。
8B	平成24年11月15日 13:30～15:30	2時間	8人	タイ(1人)、台湾(1人)、カンボジア(1人)、中国(5人)	クラス活動「人を誘う」	①～へ行くんですが、一緒に行きませんか。(発信) ②集合時間(場所)は～です。(発信) ③いつですか。(発信) ④良いですね。行きましょう。(発信) ⑤すみません、その日は～なんです。(発信) ⑥また誘ってください。(発信)
8C	平成24年11月15日 13:30～15:30	2時間	7人	中国(4人)、タイ(2人)、メキシコ(1人)	クラス活動「人を誘う」	①クラスのみんなと上野へ行くんですが、一緒に行きませんか。(発信) ②上野で紅葉を見ながら博物館へ行って、それからアメ横へ行きましょう。(発信) ③集合場所は松戸駅のみどりの窓口前です。(発信) ④集合時間は10時です。(受信) ⑤入場料は700円です。(受信)

9A	平成24年11月22日 13:30～15:30	2時間	7人	中国(4人)、コートジボワール(1人)、サモア(1人)、アメリカ(1人)	電車でのトラブルで必要となる表現が使える	①電車に(かばん)をわすれました。(発信) ②(さっき)の電車です。(発信) ③なんて言っていますか。(発信)
9B	平成24年11月22日 13:30～15:30	2時間	7人	タイ(1人)、台湾(1人)、カンボジア(1人)、中国(3人)、ベトナム(1人)	電車でのトラブルで必要となる表現が使える	①「電車にかばんをわすれたんですが。」(発信) ②「(車両の)前の方 網棚の上です。」(発信) ③「切符をなくしたんですが。」(発信) ④「なにがあったんですか。」(発信) ⑤「～線は動いていますか。」(発信)
9C	平成24年11月22日 13:30～15:30	2時間	8人	中国(4人)、タイ(2人)、メキシコ(1人)、ニュージーランド(1人)	電車でのトラブルで必要となる表現が使える	①～に〇〇を忘れてしまったんですが。(発信) ②〇〇時〇〇分頃着いた千代田線です。～から乗りました。(発信) ③何両めあたりですか。(受信) ④前/後ろのほうです/真ん中へんです。(発信) ⑤網棚の上です。(発信) ⑥すみません。何かあったんですか。(発信) ⑦～で電車が止まったみたいですよ。(受信)
10A	平成24年11月29日 13:30～15:30	2時間	7人	中国(3人)、コートジボワール(1人)、サモア(1人)、韓国(1人)、アメリカ(1人)	休むとき、遅れる時のメールでの連絡のしかた。新年のあいさつと年賀状の書き方	①～ので～ます。 タスクを通して、繰り返し練習し、習得させていく。
10B	平成24年11月29日 13:30～15:30	2時間	7人	タイ(1人)、台湾(1人)、中国(4人)、ベトナム(1人)	休むとき、遅れる時のメールでの連絡のしかた。新年のあいさつと年賀状の書き方	①良いお年を あげましておめでとうございます。 ②～もよろしくお願いいたします。 ③今日～ので、休みます。 ④少し遅れます。
10C	平成24年11月29日 13:30～15:30	2時間	7人	中国(4人)、タイ(2人)、メキシコ(1人)	休むとき、遅れる時のメールでの連絡のしかた。新年のあいさつと年賀状の書き方	【会話: 年末年始の挨拶】 年末の挨拶「よいお年を」 年始の挨拶「あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。」 【年賀状の書き方】 (横書/縦書き) 謹賀新年、恭賀新年 【メールで連絡】 〇〇先生、 きょうは 休みます。 また来週 お願いします。 △△

【鎌ヶ谷教室】

(1) 講座名称 生活行動を実現するための日本語教室

～「振り返りシート」を活用した Can-do 型授業活動～

(2) 目的・目標

- ① 構文の形式的な学習に偏重せず、在住外国人の生活行動を支える会話表現を指導する。
- ② 単に会話文の意味表現を学習するのではなく、その表現で何が出来ようになったか、その成果を確認させる。

(3) 対象者

来日後、短期間しか経ていない地域在住の外国人(原則として6ヶ月未満。国籍・年齢は問わない)

(4) 開催時間数(回数) 58 時間 (全 29 回)

1 回 2 時間 × 10 回 × 2 クラス(B・C)、1 回 2 時間 × 9 回 × 1 クラス(A)

(5) 使用した教材・リソース

文化庁『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』や『教材例集』などを参考に各教室ごとに担当者が毎時作成。

(6) 受講者の総数 32 人

(出身・国籍別内訳

フィリピン 9人、ベトナム 7人、インドネシア 6人、
スリランカ 6人、中国 3人、タイ 1人)

(7) 受講者の募集方法

(前述、松戸教室の場合と同じ)

(8) 日本語教室の具体的内容

【鎌ヶ谷教室】

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1A	平成24年9月25日 19:30～21:30	2時間	10人	インドネシア(3人)、中国(3人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)	「他者との関係を円滑にする(自己紹介・挨拶)」ー日常の挨拶が出来る	①A: はじめまして。わたしは～と申します。～(前)に～からまいりました。どうぞよろしく願います。 B: こちらこそよろしく願います。 ②「隣に引っ越してきた～と申します。」(発信) ③「～ですね。」(発信)
1B	平成24年9月25日 19:30～21:30	2時間	11人	ベトナム(4人)、インドネシア(3人)、スリランカ(1人)、フィリピン(3人)	「他者との関係を円滑にする(自己紹介・挨拶)」ー日常の挨拶が出来る	①私は～と申します。～(前)に～からまいりました。(発信) ②A: ごめんなさい。 B: はい、どちら様ですか。 A: 隣に引っ越してきた～と申します。 B: ～さんですか。 A: どうぞよろしく願います。(タオルを渡す。) A: どうも、ご丁寧にありがとうございます。 ③「～ですね。」(発信)
1C	平成24年9月25日 19:30～21:30	2時間	11人	スリランカ(5人)、フィリピン(5人)、タイ(1人)	「他者との関係を円滑にする(自己紹介・挨拶)」ー日常の挨拶が出来る	①「私は～と申します。～(前)に～からまいりました。」(発信) ②「隣に引っ越してきた～と申します。」(発信) ③「～ですね。」(発信)(受信) A: こんにちは。毎日暑いですね。 B: 本当に暑いですね。
2A	平成24年10月2日 19:30～21:30	2時間	8人	インドネシア(1人)、中国(3人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)	人に道を聞いて目的地に行くことが出来る。(徒歩)	①A: すみません。～に行きたいんですが・・・ B: ～ですか。この道をまっすぐ行って、一つ目の信号を曲がると右側にある大きなたてものです。すぐわかりますよ。 A: ありがとうございます。 ② あ、う、すみません。ちょっと聞きたいんですが(発信) この近くに～はありますか。(発信) ③ すみません。～はどこですか。

2B	平成24年10月2日 19:30～21:30	2時間	10人	ベトナム(4人)、インドネシア(3人)、スリランカ(1人)、フィリピン(2人)	人に道を聞いて目的地に行くことが出来る。(徒歩)	①市役所に行きたいんですが…。(発信) ～て、～と～です。(受信) ②A: あのを、すみません。ちょっと聞きたいんですが。 B: はい、何ですか。 A: この近くに図書館はありますか。 B: 図書館ですか。あの交差点を右に曲がって少し行くと右にあります。 A: ありがとうございます。 ③中央公民館はどこですか。(発信)
2C	平成24年10月2日 19:30～21:30	2時間	9人	スリランカ(4人)、フィリピン(4人)、タイ(1人)	人に道を聞いて目的地に行くことが出来る。(徒歩)	①すみません、～へ行きたいんですが。(発信) ②～て～と～があります。(受信)
3A	平成24年10月16日 19:30～21:30	2時間	7人	インドネシア(1人)、中国(2人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)	公共機関を使って目的地に移動することができる。	①～を買いたいんですが。(発信) ②～行きの電車はどこですか。(発信) ③この電車は～へいきますか。(発信) ④～で乗り換えてください。(受信) ⑤～番線へ行ってください。(受信)
3B	平成24年10月16日 19:30～21:30	2時間	9人	ベトナム(4人)、インドネシア(3人)、スリランカ(1人)、フィリピン(1人)	公共機関を使って目的地に移動することができる。	①すみません、切符を買いたいんですが…。(発信) ②～で買えます。(受信) ③どうやって買いますか。(発信) ④この電車は成田空港に行きますか…。(発信) ⑤～で乗り換えて、…。
3C	平成24年10月16日 19:30～21:30	2時間	8人	スリランカ(3人)、フィリピン(4人)、タイ(1人)	公共機関を使って目的地に移動することができる。	①～を買いたいんですが。(発信) ②～で買えます。(受信) ③どこへ行きますか。(受信) ④どうやって買いますか。(発信) ⑤～まではいくらですか。(発信) A: すみません。船橋までいくらですか。 B: 190円です。 A: ありがとうございます。
4B	平成24年10月23日 19:30～21:30	2時間	7人	ベトナム(2人)、インドネシア(3人)、フィリピン(2人)	「防犯・事故への対処」 安全を守るため、防犯に対処できる	①～を取られたんです。警察に電話してもらえますか。(発信) ②～です。～がいます。救急車を呼んでもらえますか。(発信) ③～に～が入ったそうです。～のときは～の方が良いですよ。(発信) ④これは、どういう意味ですか。(発信) ⑤それは、～という意味ですよ。(受信)
4C	平成24年10月23日 19:30～21:30	2時間	7人	スリランカ(3人)、フィリピン(3人)、タイ(1人)	防犯・事故に備え、対応する(安全を守るため、防犯や事故に対応できるようになる)	①～を盗られたんです。警察に電話してもらえますか。(発信) A: どちら様ですか。 B: どうしたんですか。 A: バッグを盗られたんです。警察に電話してもらえますか。 B: 分かりました。 ②～がいます。～を呼んでもらえますか。(発信) ③～たそうです。～した方が良いですよ。(受信)
5A	平成24年10月30日 19:30～21:30	2時間	5人	インドネシア(1人)、中国(3人)、フィリピン(1人)	地震に備え 対応する。(地震の時 行動することができる。)	1A: すみません。あれはなんですか。 B: 避難場所の看板です。 A: 避難場所はどこですか。 B: この近くの鎌ヶ谷中学校ですよ。 A: ありがとうございます。 2、なんと言ってますか。(発信) どこでもらえますか。(発信) ～時から～で (受信)
5B	平成24年10月30日 19:30～21:30	2時間	5人	ベトナム(3人)、フィリピン(2人)	「災害に備え、対応する」 地震の時に 行動することができる	①あれはなんですか。(発信) ②～の～です。(送信) ③～はどこですか。(発信)
5C	平成24年10月30日 19:30～21:30	2時間	8人	スリランカ(3人)、フィリピン(5人)	「災害に備え、対応する」 地震の時に 行動することができる	①～はなんですか。(発信) ②～の～です。(受信) ③～はどこですか。(発信) ④～の～ですよ。(受信)
6A	平成24年11月6日 19:30～21:30	2時間	6人	インドネシア(3人)、中国(3人)	ゴミを適切に出せる 公共のマナーを守る	①A: ごみを出したいんですが。 B: あそこに置いてください。 A: はい、わかりました。ありがとうございます。 ②～てください。(受信) ③いつ出せばいいですか。(発信) ④～はいけませんよ。(発信) ⑤～なければなりません。(発信)
6B	平成24年11月6日 19:30～21:30	2時間	7人	ベトナム(2人)、インドネシア(3人)、スリランカ(1人)、フィリピン(1人)	ゴミを適切に出せる 公共のマナーを守る	①～たいんですが。(発信) ②～てください。(受信) ③～はいけません。(発信) A: ここで電話をかけてはいけません。(シートベルトをしなければなりません) B: あ、そうですか。わかりました。 ④～なければなりません。(発信)

6C	平成24年11月6日 19:30～21:30	2時間	6人	スリランカ(2人)、フィリピン(3人)、タイ(1人)	ゴミを適切に出せる 公共のマナーを守る	①ゴミを出したいんですが。(発信) ②あそこに置いてください。(受信) ③いつ出せばいいですか。(発信) ④、、、も出すことができます。(受信) ⑤捨てたいんですがどうしたらいいですか。(発信)
7A	平成24年11月11日 10:00～12:00	2時間	10人	インドネシア(3人)、中国(3人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)	店員に話を聞いて物品 を購入したりサービス を利用できる	①すみません。～はどこにありますか。(発信) A: すみません。Gバンはどこにありますか。 B: はい。こちらです。 A: ありがとうございます。 ②すみません。～で～サイズはありますか。(発信) ③ポイントカードはお持ちですか。(受信) ④お作りしましょうか。(受信) ⑤交換(返品)したいんですが。(発信)
7B	平成24年11月11日 10:00～12:00	2時間	6人	ベトナム(4人)、フィリピン(2人)	店員に話を聞いて物品 を購入したりサービス を利用できる	①～はどこにありますか。(発信) ②～で～はありますか。(発信) A: すみません。この靴で26センチはありますか。 B: こちらです。どうぞ履いてみてください。 A: ちょうどいいです。これをください。 ③～同じものはありますか。(発信) ④ポイントカードはお持ちですか。(受信) ⑤交換(返品)したいんですが。(発信)
7C	平成24年11月11日 10:00～12:00	2時間	7人	スリランカ(1人)、フィリピン(5人)、タイ(1人)	店員の話を聞いて、欲 しい品を買うことが出 来ようになる。	①～は、どこにありますか?(発信) ②この(靴)で〇〇cmはありますか。(発信) ③これと同じものをください。(発信) ④レジブクロはおつけしてよろしいですか。(受信) ⑤返品(交換)したいんですが。(発信) A: サイズが合わないので、返品したいんですが。 B: レシートはありますか。 A: はい。 B: かしこまりました。
8A	平成24年11月13日 19:30～21:30	2時間	9人	インドネシア(2人)、中国(3人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)	医療機関で症状を伝 え、医者からの指示が理解 できる	①～がいたいんですが。～で下さい。(発信) A: すみません。〇〇がとても痛いんですが。病院 を教えてください。 B: 〇〇の前に〇〇医院がありますよ。 A: そうですか。ありがとうございます。 ②～に～がありますよ。(受信) ③初めてなんですが。(発信) ④どうしましたか。(受信) ⑤いつからですか。(受信)
8B	平成24年11月13日 19:30～21:30	2時間	8人	ベトナム(2人)、インドネシア(3人)、スリランカ(1人)、フィリピン(2人)	医療機関で症状を伝 え、医者からの指示が理解 できる	①～んです」「～てください。(発信) ②～に～があります。」「(受信) A: すみません。初めてなんですが。 B: こちらの問診表に記入してください。 A: 日本語は書けません。 B: 保険証はお持ちですか。 A: はい。 ③～なんですが。(発信) ④～てください。(受信)
8C	平成24年11月13日 19:30～21:30	2時間	6人	スリランカ(2人)、フィリピン(3人)、タイ(1人)	医療機関で症状を伝 え、医者からの指示が理解 できる	①～がいたいんですが。(発信) ②はじめてなんですが。(発信) ③どうしましたか。(受診) 医者: どうしましたか。 A: お腹がとても痛いんです。 ④いつからですか。(受診)
9A	平成24年11月20日 19:30～21:30	2時間	9人	インドネシア(3人)、中国(3人)、ベトナム(3人)	薬を利用する一症状を 説明して薬を求めるこ とができる。使用法等 が理解できる。	①すみません。～が～(い)んですが。(発信) A: すみません。のどが痛いんですが。 B: 熱はありますか。 A: いいえ、ありません。 B: それじゃ、この薬がいいでしょう。 A: そうですか。それをください。 ②～はありますか。(受信) ③～(いつ)に〇〇錠、服用して(飲んで)ください。 (受信) ④処方箋が出ています。(受信) ⑤いつからですか。(受信)
9B	平成24年11月20日 19:30～21:30	2時間	6人	ベトナム(1人)、インドネシア(3人)、スリランカ(1人)、フィリピン(1人)	薬を利用する一症状を 説明して、薬を求める ことができ、使用法等 が理解できる。	①すみません。～が～んですが。(発信) ②～に服用して(飲んで)下さい。(発信) B: この薬は、1回3錠、1日3回、食後に服用して 下さい。 A: ごはんの後に飲むんですね。 B: はい、そうです。 A: その薬をのんで眠くなりますか。 B: いいえ、これは大丈夫ですよ。 ③～に飲むんですね。(受信) ④その薬を飲んで～ますか。(発信) ⑤これは～です(ます)。(受信)

9C	平成24年11月20日 19:30～21:30	2時間	11人	スリランカ(5人)、フィリピン(5人)、タイ(1人)	薬を利用する一症状を説明して、薬を求めることができ、使用法などが理解できる。	①～なんですが。(発信) ②～は～ありますか。(受信) ③はい、あります。／いいえ、ありません。(発信) ④～この薬がいいでしょう。(受信)
10A	平成24年11月25日 10:30～12:30	2時間	10人	インドネシア(3人)、中国(3人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)	体調が悪いことを伝えることができ、病気の予防法を聞くことができる	①～んですが。(発信) ②～ほうがいいですよ。(受信) A: すみません、頭が痛いんですが。 B: 大丈夫ですか、早く帰ったほうがいいですよ ③気をつけてください。(受信) ④どうしたらいいですか。(発信) ⑤～といいですよ。(受信)
10B	平成24年11月25日 10:30～12:30	2時間	7人	ベトナム(2人)、インドネシア(2人)、フィリピン(3人)	健康に気をつける(体調が悪いことを伝え、病気の対処・予防方法を聞くことができる)	①～が～んですが。(発信) ②～ほうがいいですよ。(受信) ③流行っています。気をつけてください。(受信) B: インフルエンザが流行っています。気をつけてください。 A: どうしたらいいですか。 B: 手洗いをやうがいをするといいですよ。 A: はい。わかりました。 ④どうしたらいいですか。(発信) ⑤～するといいですよ。(受信)
10C	平成24年11月25日 10:30～12:30	2時間	3人	スリランカ(1人)、フィリピン(2人)	健康に気をつける(体調が悪いことを伝え、病気の対処・予防方法を聞くことができる)	①～んですが。(発信) ②～ほうがいいです。(発信) ③きをつけてください。(受信) ④～といいですよ。(受信)

【取手教室】

(1) 講座名称 生活行動を実現するための日本語教室

～「振り返りシート」を活用した Can-do 型授業活動～

(2) 目的・目標

- ① 構文の形式的な学習に偏重せず、在住外国人の生活行動を支える会話表現を指導する。
- ② 単に会話文の意味表現を学習するのではなく、その表現で何が出来るようになったか、その成果を確認させる。

(3) 対象者

来日後、短期間しか経ていない地域在住の外国人(原則として6ヶ月未満。国籍・年齢は問わない)

(4) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)

1 回 2 時間 × 10 回 × 3 クラス(A・B・C)

(5) 使用した教材・リソース

文化庁『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』や

『教材例集』などを参考に各教室ごとに担当者が毎時作成。

(6) 受講者の総数 34 人

(出身・国籍別内訳

中国 8人、ネパール 7人、ベトナム 6人、フィリピン 4人、ギリシャ 2人、ペルー 2人、インドネシア 1人、カナダ 1人、ブラジル 1人、アメリカ 1人、イギリス 1人)

(7) 受講者の募集方法

(前述、松戸教室の場合と同じ)

(8) 日本語教室の具体的内容

【取手教室】

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1A	平成24年9月7日 18:45～20:45	2時間	12人	中国(4人)、インドネシア(1人)、ギリシャ(1人)、フィリピン(2人)、ペルー(1人)、ベトナム(3人)	初めて会った人に簡単な自己紹介(職業・出身国)ができる。	①A: はじめまして、私は浦です。どうぞ宜しくお願いします。 B: はじめまして、Bです。こちらこそどうぞ宜しくお願いします。 ② (国) 人です。～の～から来ました。 ③私は(職業)です。()の(職業)です。
1B	平成24年10月7日 10:00～12:00	2時間	12人	ネパール(3人)、カナダ(1人)、ブラジル(1人)、中国(2人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(3人)	初めて会った人に簡単な自己紹介(職業・出身国)ができる。	①はじめまして。私は(名前)です。 ②(国) 人です。/(国) から来ました。 ③(いつ)、(国)の(都市名)から来ました。 ④私は(職業)です。/(職場)で働いています。 ⑤私の趣味は()です。/私は()が好きです。 ⑥家族は()人です。AとBとCです。 ⑦どうぞよろしくお願いします。
1C	平成24年10月21日 10:00～12:00	2時間	10人	アメリカ(1人)、イギリス(1人)、中国(2人)、フィリピン(2人)、ネパール(4人)	初めて会った人に簡単な自己紹介(職業・出身国)ができる。	1)はじめまして。 2)私は～です。 3)〇〇にから来ました。 4)〇〇人です。5)〇〇に来ました。 6)私は職業です。7)〇〇で働いています。 8)仕事をしています。 9)私は〇〇が好きです。 10)趣味はなんですか。 11)家族の呼び方
2A	平成24年9月14日 18:45～20:45	2時間	9人	中国(3人)、インドネシア(1人)、ギリシャ(1人)、フィリピン(1人)、ベトナム(3人)	デパートで自分の買いたいものがどこにあるか聞くことができる。	①～は何階ですか。(発信) ②～はどこですか。(発信) ここ、そこ、あそこ、どこ
2B	平成24年10月21日 10:00～12:00	2時間	9人	ネパール(2人)、ブラジル(1人)、中国(2人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(2人)	電話で対応・予約・休みの届けができる	①もしもし、〇〇さんのお宅ですか。(発信) ②△△ともうしますが、××さんいらっしゃいますか。(発信) ③ちょっと お待ちください。(受信) ④今、出かけています。(受信) ⑤またあとで、お電話します。(発信) ⑥どのようなご用件ですか。(受信) ⑦～と、伝えてください。(発信) ⑧予約 お願いします。(発信) ⑨〇〇は空いていますか。 ⑩～ので、お休みさせていただきます。(発信)

2C	平成24年11月4日 10:00～12:00	2時間	7人	アメリカ(1人)、イギリス(1人)、フィリピン(1人)、ネパール(4人)	電話をかけて相手を電話口へ呼び出してもらえることができる／不在の場合のやり取りができる	1)～のお宅ですか。(発信) 2)～もうしますが、～さん、いらっしゃいますか。(発信) 3)すみません。まちがえました。(発信) 4)こちらは、123-456-7890です。(発信) 5)～と、伝えてください。(発信) 6)はい、そうです／いいえ、ちがいます。(受信) 7)ちょっと、お待ちください。(受信) 8)出かけています。(受信) 9)あとでこちらからかけさせます。(受信)
3A	平成24年9月21日 18:45～20:45	2時間	8人	中国(3人)、ギリシャ(1人)、フィリピン(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(2人)	靴売り場でのやり取りができる。	①～センチのくつはどこですか。(発信) A: いらっしゃいませ。 B: すみません、25センチの靴はどこですか。 A: はい、こちらでございます。 ②～い靴をください。(い形容詞) (発信) ③～はありますか。(発信) ④～を見せてください。(発信)
3B	平成24年11月4日 10:00～12:00	2時間	9人	ネパール(3人)、ブラジル(1人)、中国(2人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(1人)	病院で診察を受ける—初診の手続きができる。医師に症状を伝えることができる。	①(～が痛いんです)が、～病院はありませんか。(発信) ②はじめてなんですが。(発信) ③(問診票に)記入してください。(受信) ④保険証はお持ちですか。(受信) ⑤今日はどうしましたか。(受信) ⑥(熱があつて、咳が出る)んです。(発信) ⑦いつからですか。」「(受信)」「昨日からです。(発信)
3C	平成24年11月11日 10:00～12:00	2時間	8人	アメリカ(1人)、イギリス(1人)、中国(1人)、フィリピン(1人)、ネパール(4人)	電話で色々な予約ができる—歯医者の予約、レストランの予約、ホテルの予約、学校・仕事の欠席届ができる	①もしもし、～歯科ですか。(発信) ②歯が痛いんですが、予約をお願いします。(発信) ③一番早くて、明日の～になりますか。(受信) ④～はちょっと。～は、空いていますか。(発信) ⑤～はどうですか。(受信) ⑥はい、～でお願いします。
4A	平成24年10月5日 18:45～20:45	2時間	9人	中国(3人)、インドネシア(1人)、ギリシャ(1人)、フィリピン(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(2人)	初めて会った人に簡単な自己紹介(趣味・家族)ができる。	①家族は～人です。～と～がいます。 A: 家族は何人ですか。 B: 家族は(3人)です。 妻と子どもがいます。 どうぞ宜しくお願いします。 ②～に住んでいます。 ③趣味は～です。
4B	平成24年11月11日 10:00～12:00	2時間	8人	ネパール(2人)、ブラジル(1人)、中国(2人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(1人)	薬局、薬店で薬を買うことができる	①「(風邪をひいた)んですが、いい薬はありますか。」(発信) ②「(頭が痛くて、(せきが)です。)」(発信) ③「～と～は、どこがちがいますか。」(発信) ④「1日〇回、(食後)に飲んでください。」(受信) ⑤「どんな症状ですか。」(受信) ⑥「AとBと、どちらがいいですか。」(受信)
4C	平成24年11月18日 10:00～12:00	2時間	9人	アメリカ(1人)、イギリス(1人)、中国(2人)、フィリピン(1人)、ネパール(4人)	電車に乗って移動ができる	①～に行きたいんですが切符売り場はどこですか。(発信) ②～までいくらですか。(発信) ③～はこちらです。(受信) ④～まで210円です。(受信) ⑤ここにお金をいれて、のを押して下さい。(受信) ⑥次の～行きは何時何分ですか。(発信) ⑦12時24分です。(受信)
5A	平成24年10月12日 18:45～20:45	2時間	10人	中国(3人)、インドネシア(1人)、ギリシャ(1人)、フィリピン(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(3人)	症状にあった病院の所在を聞くことができる。病院受付で初診の手続きができる。	①(症状)んです。 ②～はありませんか。 A: すみません。熱があるんですが、近くに良い病院はありませんか。 B: ああ、それなら ABC医院がいいですよ。 A: そうですか、ありがとうございます。 ③～してください。
5B	平成24年11月18日 10:00～12:00	2時間	9人	ネパール(3人)、中国(2人)、ギリシャ(1人)、ベトナム(3人)	電車に乗って移動ができる	①すみません、(柏)へ行きたいんですが…。(発信) ②次の上野行きは、(何時)何分ですか。(発信) ③何番線ですか。(発信) ④この電車は、(柏)へ行きますか。(発信) ⑤(上野)で、(山手線)に 乗り換えてください。(受信) ⑥(取手)から(秋葉原)まで、どのくらいですか。(発信)
5C	平成24年12月2日 10:00～12:00	2時間	8人	イギリス(1人)、中国(2人)、フィリピン(1人)、ネパール(4人)	病院で診察を受けることができる。	①すみません。頭が痛いんですが、近くに良い病院はありませんか。(発信) ②はじめてなんですが。(発信) ③どうしましたか。(受信) ④いつからですか。(受信) ⑤昨日の夜からです。(発信) ⑥口を大きく開けて下さい。(受信) ⑦お風呂に入ってもいいですか。(発信)

6A	平成24年10月19日 18:45～20:45	2時間	11人	中国(3人)、インドネシア(1人)、ギリシャ(1人)、フィリピン(2人)、ペルー(1人)、ベトナム(3人)	薬局、薬屋で薬を買うことができる。	①こちらが～です。(受信) ②1日～回(いつ)～てください。(受信) ③(症状)時、～てください。(受信) ④(症状)んですが、～薬はありますか。(発信) ⑤～と～とどちらがいいですか。(受信)
6B	平成24年12月2日 10:00～12:00	2時間	9人	ネパール(3人)、ブラジル(1人)、中国(1人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(2人)	買い物ができる	①「～を(つ)ください。(発信) ②「ここで食べます。/持って帰ります。」(発信) ③「()はどこですか。」(発信) ④「()は、(ここ/そこ/あそこ/……)です。」(受信) ⑦「(着)ててもいいですか。」(発信) ⑤「ちょっと(小さい)です。もう少し(大きいの)ありますか。」(発信)
6C	平成24年12月9日 10:00～12:00	2時間	9人	アメリカ(1人)、イギリス(1人)、中国(2人)、フィリピン(1人)、ネパール(4人)	事件・事故に備え、対応することができる。地震も含む。	①どろぼう！助けて！(発信) ②～が欲しいんですが、どこでもらえますか。(発信) ③～を取られたんです。(発信) ④ドロボーを追いかけて下さい。(発信) ⑤119番、消防署です。火事ですか。救急ですか。(受信) ⑥火事です。(発信) ⑦場所はどこですか。(受信) ⑧～が燃えています。
7A	平成24年11月9日 18:45～20:45	2時間	9人	中国(3人)、ギリシャ(1人)、フィリピン(2人)、ペルー(1人)、ベトナム(2人)	電車に乗って移動ができる。	①～へ行きたいんですが…(発信) ②～を～て、～を～てください。(受信) ③～行きは～ですか。(発信) ④～は～へいきますか。(発信)
7B	平成24年12月9日 10:00～12:00	2時間	7人	ネパール(2人)、ブラジル(1人)、中国(1人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(1人)	事件・事故・火事・救急・地震に備え、対応できる	①どろぼう！ たすけてー！(発信) ②事件ですか。事故ですか。(受信) ③～を、とられたんです。(発信) ④名前は…です。/住所は…です。/電話番号は…です。(発信) ⑤火事ですか。救急ですか。(受信) ⑥～が燃えています。(発信) ⑦～て、けがをしました。(発信) ⑧(地震)のとき、(どうすれ)ばいいんですか。」(発信) ⑨(水)はどこで、もらえますか。(発信)
7C	平成24年12月16日 10:00～12:00	2時間	8人	アメリカ(1人)、イギリス(1人)、中国(2人)、フィリピン(1人)、ネパール(3人)	ファーストフード店で注文ができる 売り場で試着に関するやり取りができる 商品について聞き、変更ができる。	①ハンバーガーをひとつと、チーズバーガーをひとつ、それから、コーヒーをふたつ下さい。(発信) ②お持ち帰りですか。こちらで召し上がりますか。(受信) ③すみません。エスカレーターはどこですか。(発信) ④すみません。これと、これとどこがちがいますか。(発信) ⑤すみません。これを着ててもいいですか。(発信) ⑥ちょっと小さいです。もう少し大きいのはありますか。(発信) ⑦すみません。これちょっと小さいんですが、交換してもらえませんか。(発信) ⑧レシートをお持ちですか。(受信)
8A	平成24年11月16日 18:45～20:45	2時間	6人	中国(1人)、インドネシア(1人)、ギリシャ(1人)、フィリピン(2人)、ベトナム(1人)	病院の診察室で医師に症状を伝え医師の指示に従うことができる。	①～が～んです。(症状を伝える・発信) ②～からです。(いつか伝える・発信) ③～てください。(指示を理解する・受信) ④～しましょう。(説明を理解する・受信) ⑤～してもいいですか。(発信) ～ないでください。(受信)
8B	平成25年1月6日 10:00～12:00	2時間	9人	ネパール(2人)、ブラジル(1人)、中国(2人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(2人)	郵便・宅配で荷物を送ったり受け取ったりできる	①この荷物を(中国)へ送りたいんですが…。(発信) ②中は、何ですか。(受信) ③何日位(どれくらい)で着きますか。(発信) ④(EMS)をお願いします。(発信) ⑤こわれものは、ありませんか。(受信) ⑥お時間の希望は、ございますか。(受信) ⑦不在連絡票が入っていたんですが。(発信)
8C	平成25年1月6日 10:00～12:00	2時間	10人	アメリカ(1人)、イギリス(1人)、中国(2人)、フィリピン(2人)、ネパール(4人)	病院の診察室で医師に症状を伝え医師の指示に従うことができる。	①～が～んです。(症状を伝える・発信) ②～からです。(いつか伝える・発信) ③～てください。(指示を理解する・受信) ④～しましょう。(説明を理解する・受信) ⑤～してもいいですか。(発信) ～ないでください。(受信)
9A	平成25年1月11日 18:45～20:45	2時間	7人	中国(2人)、インドネシア(1人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(2人)	ハンバーガーショップで買い物ができる。	①～は近くにありますか。(発信) ～は～にあります。 ②こちらでお召し上がりですか。(受信) 食べます。(発信) 持ち帰ります。(発信) ③ご注文をどうぞ。(受信) ④～と～を…つ、それから…ください。(発信) ⑤～を頼んだんですけど…(発信)

9B	平成25年1月13日 10:00～12:00	2時間	9人	ネパール(2人)、ブラジル(1人)、中国(2人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(2人)	自分がどこにいるか言ったり、行きたい場所がどこにあるか聞いたりできる。	①今どこにいますか。(受発信) ②～にいます。(受発信) ③近くに何がありますか。(受発信) ④～があります。(受発信) ⑤～は、どこにありますか。(受発信) ⑥～にあります。(受発信) ⑦～を(右/左)へ曲がって、まっすぐ行ってください。(受発信)
9C	平成25年1月13日 10:00～12:00	2時間	8人	アメリカ(1人)、イギリス(1人)、中国(2人)、フィリピン(1人)、ネパール(3人)	街の薬屋で自分の症状を伝えて適切な薬を買うことができる。(処方箋のない場合)	①〇〇が痛いんですが、良い薬はありますか。(発信) ②この薬とこの薬はどこか/何がちがいますか。(発信) ③〇〇を飲む/さす/塗る/貼る/使う前に説明書をよく読んで下さい。(受信) ④字が読めません。教えて下さい。(発信)
10A	平成25年1月18日 18:45～20:45	2時間	8人	中国(2人)、インドネシア(1人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(3人)	分からない場所を人に聞いて目的地に行くことができる。	①～は～の～にあります。 ②～は～です。 ③～て～と～にあります。
10B	平成25年1月20日 10:00～12:00	2時間	11人	ネパール(3人)、ブラジル(1人)、中国(2人)、ギリシャ(1人)、ペルー(1人)、ベトナム(3人)	人を誘ったり、人からの誘いを受けたり、断ったりできる。	①(今晚)、一緒に、(カラオケ)に 行きませんか。(受発信) ②いいですね。行きましょう。(受発信) ③すみません、(今晚)はちょっと…。(受発信) ④しごとがあるので…。(受発信) ⑤(上野)へ、(絵を見)に行きませんか。(受発信)
10C	平成25年1月20日 10:00～12:00	2時間	10人	アメリカ(1人)、イギリス(1人)、中国(2人)、フィリピン(2人)、ネパール(4人)	道を尋ねる。位置表現が理解できる。	①もしもし、〇〇さん、〇〇ですけど……。 (発信) ②駅の前にいます。(発信) ③駅の前?近くに何がありますか。(受信) ④〇〇銀行があります。(発信) ⑤市役所はどこにありますか。(発信) ⑥あそこです。学校のとなりにありますよ。(受信) ⑦近くに、100円ショップはありますか。(発信) ⑧この信号を渡って、まっすぐ行くと、右側にありますよ。(受信) ⑨公民館へ行きたいんですが、地図をかいて頂けませんか。(発信) ⑩ここからどのくらいかかりますか。(発信) ⑪もしもし、明日、11時に大手駅で会いましょう。(発信)

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

日本語教室の運営	授業内容報告書		作成日:	2012. 11. 8	
授業日	2012. 11. 8	教室名	松戸 教室		
講師担当者	小宮山 まり子				
学習者の人数・国籍	5人(中国) / 1人(サモア) / 1人(韓国)				
当日出席者	7人	授業時間	13:30	～	15:30
本時の目標	誘う表現を学ぶ				
1. 授業内容					
【時系列に沿って、下記の各項目を記入してください】					
学習させる文型と 提示方法	①「〇〇は好きですか」(発信) ②「今度一緒に〇〇に行きませんか」(受信) ③「今度一緒に〇〇を△△に行きませんか」(発信) ④「いつ〇〇ますか」(発信) ⑤「〇〇はどうですか」(発信) 絵や写真、文例カードを使いながら使い方を会話例(スキット)の中で教師が提示する。				

	教師の活動	学習者の活動
指導項目と活動内容	1.学習するスキットを演じて会話例を3回聞かせる 2.その場面で必要な語彙を絵、写真、実物で確認する 3.スキットを演じて会話例を聞かせる A:「(名詞)は好きですか」 B:「はい 好きです」/「あまり好きじゃないです」 A:「今度一緒に(場所)に行きませんか」/「そうですか」 B:「いいですね」 4.全体練習をしたあと、教師と学習者間でスキットを演じる 5.学習者同士で役割を決めて、スキットを演じる 6.自分が好きな語を使って、ロールプレイを行う。 7.次のスキットに必要な語彙をイラストを使って学んでいく 8.スキットを演じて会話例を三回聞かせる A:「(名詞)は好きですか」 B:「はい、好きです」 A:「今度一緒に(名詞)を(動詞)に行きませんか」 B:「いいですね」 9.8のスキットで、4～6を行う 10.次のスキットに必要な語彙をイラストを使って学んでいく 11.スキットを演じて会話例を三回聞かせる A:「今度一緒に(名詞)を(動詞)に行きませんか」 B:「いいですね いつ行きますか」 A:「(時を表す名詞)は どうですか」 B:「いいですよ」/「あーちょっと用事があって・・また誘ってください」 12.11のスキットで4～6を行う 13.振り返りシートを使いながら、今日学んだことを教師と一緒に振り返る	1.スキットを聞く 2.新出単語等を理解する、発声練習 3.教師のスキットを聞く スキットの内容を理解する 4.教師の指示に従って口頭練習をする 5.スキットを口頭練習する 6.単語を自分が言いたいことと入れ替え、スキットを演じる 7.語彙の発声練習をする、意味を理解する 8.教師のスキットを聞く スキットの内容を理解する 9.8のスキットで4～7を行う 10.新出単語の意味を理解する、発声練習 11.教師のスキットを聞く スキットの内容を理解する 12.11のスキットで4～6を行う 13.振り返りシートを教師と共に記入する、自分の理解度をチェックする
用いた教材:	写真 絵 文型カード ロールプレイ役割目印台	
振り返りシート: 実施方法	用意したシートを利用し、教師の口頭での質問に対し、答えをマークする形式で行った。口頭練習は間違った場合のみ言いなおしをさせた。シートは教師が持ち帰り、コメントを書き加え、翌週学習者に返却する。	
【総 評】	語彙導入を丁寧に行った。きちんと意味を理解し、発音を練習したあとで会話練習を行ったので、スキットの学習者の理解は深かったと感じた。会話練習が棒読みにならないよう気をつけながら自然な会話になるよう何度も練習を重ねた。学習者の好きなものを事前に調査してあったので、学習者の興味をひくことができた。	
2. 振り返りシートの処理・運用		
文字をみて、きちんと発音できたか教師がチェックし、その場で返却する振り返りを行った。場面の絵を見せて、こういう時はどう言うのかの振り返りを中心に行った。口頭表現の評価は、教師と振り返りをしながら、学習者自身が行った。授業中良かったことだけでなく、じょうずに発音できなかった語彙を指摘し、練習するように促すコメントを付け加えた。		
3. 添付する教材	☒ 有 ()	☐ 無
4. その他の問題点 (備考)	よく出来る学習者とそうでない学習者の差がある。そうでない学習者の発音練習に時間をとられてしまうと、出来る学習者が暇になってしまう。発話練習量のバランスがうまく取れないときがある。	

日本語教室の運営	授業内容報告書		作成日:	2012.10.17
授業日	2012.10.16	教室名	鎌ヶ谷教室	
講師担当者	橋田 弘子			
学習者の人数・国籍	1人(インドネシア)／2人(中国)／3人(ベトナム)／1人(フィリピン)			
当日出席者	7人	授業時間	19:30 ～ 21:30	
本時の目標	公共機関を使って目的地に移動する			
1. 授業内容 [時系列に沿って、下記の各項目を記入してください]				
学習させる文型と 提示方法	①「～を買いたいんですが。」(発信) ②「～で買えます。」(受信) ③「どこへ行きますか。」(発信) ④「どうやって買いますか。」(発信) ⑤「～まではいくらですか。」(発信) それぞれの文型を以下の会話例の中で教師が指示し、その運用法を示す。			
指導項目と活動内容	教師の活動		学習者の活動	
	1. 駅の写真を見せ、本日のテーマを伝える。 2. 写真を参考にしながら、単語を確認する。 3. スキットを演じて会話例を聞かせる。 例文1 A: すみません、切符を買いたいんですが。 B: あの自動券売機で買えますよ。どこへ行きますか。 A: 船橋です。 B: ここに190円入れてください。そしてこのボタンを押してください。 A: わかりました。ありがとうございます。 4. スキットの文例の言いならし口頭練習をさせる。 5. 教師と学習者間でスキットを演じる。駅名、運賃は適宜入れ替える。 (役割を換えて同様に再度演じさせる。) 6. 学習者間でスキットを演じる。(役割を換えて再度演じさせる。) 7. 応用文型としての新たな会話例をスキットを演じて聞かせる。 例文2 A: すみません、船橋までの切符を買いたいんですが、どうやって買いますか。 B: あの自動券売機で買えますよ。 A: ありがとうございます。 8. 上記4、5、6と同様に繰り返し口頭練習をさせる。 9. 新たな会話例をスキットを演じて聞かせる。 例文3 A: すみません、船橋まではいくらですか。 B: 190円です。 10. 上記4,5,6と同様に繰り返し口頭練習をさせる。 11. 振り返りシート記入のための補助をする。		1. テーマを確認する。 2. 単語を口頭練習する。 3. 教師のスキットを聞く。 4. 文例を一人ずつ口頭練習する。 5. 教師の誘導で会話練習。 (役割を換え再度練習) 6. 学習者間で写真パネル、文字カードを手掛かりにスキットを演じる。 7. 教師のスキットを聞く。 8. 上記4,5,6と同様に繰り返し口頭練習をする。 9. 教師のスキットを聞く。 10. 上記4,5,6と同様に繰り返し口頭練習をする。 11. 振り返りシートの記入。	
用いた教材:	(写真パネル)切符、自動券売機、改札、プラットホーム、運賃表 (文字カード)駅名、運賃 (スキット演出用)ペープサート2本			
振り返りシート: 実施方法	用意したシートを利用。ひらがなをスムーズに読むことができないので、教師が口頭でフォロー。フレーズチェック、タスクⅠは教師がフレーズを言った後、それを正しくリピートすることができたら、OKということにした。タスクⅡは口頭で質問し、答えてもらった。			

【総 評】	Can-do型授業3回目ということで、学習者も少しずつ慣れてきたようだ。今回は「電車で移動」というテーマだったが、学習者から自発的にいろいろな駅名が出てきた。それらを通して彼らの生活の一端を知ることができた。また「自動券売機」など難しい言葉もあったが、繰り返し口頭練習をすることで定着していくことを実感した。		
2. 振り返りシートの処理・運用			
「学習者の感想」の欄は、前回に引き続き(たいへんよくできた)(よくできた)(もうすこし)の3段階の中から選択することとした。前回の経験もありスムーズに選ぶことができた。また振り返りシートの日本語の下に母国語で記入する学習者の姿が見られた。このシートが家に持ち帰ったあとの復習に活用されることを期待したい。			
3. 添付する教材	☒ 有 (写真パネル、文字カード)		☐ 無
4. その他の問題点 (備考)	今回は2人が15分程遅刻。こういったことも授業を進めていくうえで難しい点である。		

日本語教室の運営	授業内容報告書		作成日:	2012. 11. 12
授業日	2012.11. 11	教室名	取手教室	
講師担当者	御厨 恒雄			
学習者の人数・国籍	2人(ネパール)/1人(ブラジル)/2人(中国)/1人(ギリシャ)/1人(ペルー)/1人(ベトナム)			
当日出席者	8人	授業時間	10:00 ~12:00	
本時の目標	薬局、薬店で薬を買うことができる			
1. 授業内容	【時系列に沿って、下記の各項目を記入してください】			
学習させる文型と 提示方法	①「(風邪をひいた)んですが、いい薬はありますか。」(発信) ②「(頭が痛く)て、(せきがでます)。」「(発信) ③「～と～は、どこがちがいますか。」(発信) ④「1日〇回、(食後)に飲んでください。」(受信) ⑤「どんな症状ですか。」(受信) ⑥「AとBと、どちらがいいですか。」(受信) それぞれの文型を以下のスキットの中で教師が提示し、その運用法を示す。			

指導項目と活動内容	教師の活動	学習者の活動
	1. スキットを演じて会話例を聞かせる。 文型①薬局で薬剤師の説明する薬の飲み方を正確に聴きとることができる。 B: Aさん。 A: はい。 B: Aさんですね。 A: はい。 B: こちらが お薬です。3種類でています。 これは、1日3回、食後に飲んでください。 これは、1日2回、朝と晩、食前に飲んでください。 これは、咳が出たときに飲んでください。 A: はい。これは1日3回ご飯の後、これは朝と晩、ご飯の前ですね。 B: はい、そうです。980円になります。おだいじに。 文型②薬店で自分の症状を伝えて、適切な薬が買える。 A: すみません。風邪をひいたんですが、いい薬はありますか。 B: おとなの方ですか。こどもさんですか。 A: わたしです。 B: どんな症状ですか。 A: 頭が痛くて、咳が出ます。 B: 熱はありますか。 A: 少しあります。 B: それなら、これがいいでしょう。 A: そうですか。 A: すみません、肩がこるんですが、いい薬はありますか。 B: 貼り薬と、塗り薬があります。どちらがいいですか。 A: 塗り薬をください。 文型③服用の説明を理解できる。 B: お薬の説明をよく読んで、飲んでください。 A: せつめい？ B: こちらに書いてあります。 A: すみません、字が読めません。教えてください。 A: はい、わかりました。(説明する) 文型④薬の違いを尋ねることができる。 A: すみません、風邪薬が欲しいんですが、この薬とこの薬は どこが違いますか。 B: こちらは、咳とどのどのお薬です。こちらは、鼻水、鼻づまりに 効きます。 A: そうですか。じゃあ、こっちをください。 2. スキット場面での初出単語等を確認する。 3. スキットの文例の言い慣らし口頭練習をする。 4. 教師と学習者間で、スキットを演じる。 5. 発展・応用文型を提示する。 6. 本時で使用する漢字を提示する。	1. 教師のスキットを聞く。 スキットで使用された本時の各文型とその運用法に気づく。 2. 初出単語などを理解する。 3. 教師の指示に従って、口頭練習のスキルアップを繰り返しおこなう。 4. 教師の誘導で、会話練習をおこなう。 5. 発展・応用文型の口頭練習をする。 6. 本時使用の漢字を、書けるようにするものと、読めるようにするもの、見てわかるようにするものを分けて練習する。

用いた教材:	(絵/パネル) 場面風景・症状を表した絵・薬の種類の絵と写真・薬の袋の絵 (文字カード) 単語カード	
振り返りシート: 実施方法	用意したシートを利用し、教師の口頭での質問に答える形式でおこなった。本時学習の文型は、教師の指示を基に学習者に言わせた。	
〔総 評〕	本時の学習スキットは、学習者が発信するよりも、受信した内容を理解する部分の方が多かったので、会話練習として、学習者自国の薬局事情や、日本の薬局で薬を買った時の経験などを話してもらった。売薬の箱の薬の用法表示が理解できて、少し安心したようだった。	
2. 振り返りシートの処理・運用		
学習者自身が、振り返りシートの形式に慣れてきたため、スムーズに処理できるようになった。		
3. 添付する教材	☒ 有 (場面風景図・薬の種類図・薬の用法図・症状の図)	☐ 無
4. その他の問題点 (備考)		

(教室風景の写真)



授業では外国人にたくさん発話させる



学習したフレーズを使ってシミュレーション



授業終了時には「振り返りシート」で確認



Can-do ゲーム。「出来た」という実感が大切

(10) 目標の達成状況・成果

外国人の生活支援となり得る日本語教育を明確にするため、Can-do 型授業の指導法の補充、補強をおこなうとともに、地域日本語教室でこれまでほとんどおこなわれてこなかった「学習者の語学力評価」「教師の指導力評価」双方のシステムを、「振り返りシート」という形式で実施することがこの取組の大きな指針であった。

Can-do 型授業をおこなうためには、従来、多くの教室が用いてきた「構文指導用教科書」に依るわけにはいかず、各教室、各教師が独自の場面・行動別会話例を作成しなければならなかった。かつ、そこに日本語の体系性を持たせるべく、ある程度の文型の網羅性を盛り込むという配慮も必要だったが、文化庁の『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』などを参考にして、各教室ともかなり実用性の高い会話例を作成できたと思われる。ただ、文型の網羅性という点については、文型の分析にまだ不十分な部分が残る結果となった。

地域が異なる3つの教室(「松戸市グループ」「取手市グループ」「鎌ヶ谷市グループ」と連携して実施したが、事業終了後の話し合いで、その成果として大きく以下の2点があげられた。

- ① 本事業を地域と連携しておこなったことにより、その趣旨がかなり広域の地域に浸透・理解してもらうことができた。
- ② 複数の教室が同じ趣旨で授業活動をおこなった結果の異同を観察でき、各々の教室に内在する特殊な問題点を浮かび上がらせることができた。

(11) 改善点について

【取組内容に関して】

3つの教室(「松戸市グループ」「取手市グループ」「鎌ヶ谷市グループ」)は、さらにそれぞれが3つずつのクラス(A・B・C)を設置し、1人ずつ教師が担当し指導にあたった。各教室とも教師間で綿密な連携はとりつつも、教案などはクラスの学習者の実情に合致させるべく、

最終的には個人レベルで作成した。Can-do 型授業に本格的に取り組むのは、各教室とも初めての経験であったが、各教師から大変ではあったがひじょうに有益な経験だったとの感想が多くあがった。また、同じ明確な目標を持つことで、教師のチームワークの強化にも役立ったという意見もあった。

【実施体制に関して】

当初は、各クラス 10 人以上で開始したが、中には受講者が定着しないクラスもあり、日によってはかなり出席状況が悪く、うまく授業が進められない場合もあったようである。クラスの学習レベルが個々人でみるとバラつきがあるところも多く、会話レベルが単純であればあるほど、その有効性の問題とは関係なく、受講者によっては「あまり勉強にならない」と感じる者もいて、ニーズ調査やプレイスメントテストの必要性を今後は考える必要があるのではないか、などの課題も残った。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称 Can-do 型授業におけるポートフォリオの運用研修講座

(2) 目的・目標

- ① 構文指導用の教科書に縛られることなく、在住外国人に日本語を教える目的・意義を自覚しながら、生活サバイバル的表現を重視した日本語会話の指導法を研修する。
- ② 学習者のみならず、教師の授業改善にも有用な「振り返り」のシステムを構築するため、ポートフォリオを利用した評価のあり方を研修する。
- ③ 従来、よく見られた「文型の意味を解説するための文例、またはその授業活動」をどのように捉え直せば、Can-do 型の実践的な日常会話文例・実践的指導法となるかを検討する。

(3) 対象者

地域でのボランティア日本語教育に2年以上従事している者。また、これまで日本語指導をしてきた経験を踏まえ、外国人の生活行動を支える Can-do 重視の日本語指導法に関心のある者。

(4) 開催時間数(回数) 2 時間 (全 15 回)

(5) 使用した教材・リソース

『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』
『外国語教育Ⅱ—外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ参照枠—』

『JF日本語教育スタンダード』(国際交流基金)

『できる日本語 初級』(アルク)

その他、各講師作成プリント ほか

(6) 受講者の総数 37 人

(出身・国籍別内訳 日本 37人)

(7) 受講者の募集方法

聖徳大学広報／東葛地域の各市国際交流協会、教育委員会、日本語教室などに案内
書郵送(HPによる募集を含む)。以下のチラシなどを利用した。



平成24年度 文化庁日本語教育委託事業
聖徳大学言語文化研究所主催

Can-do型授業における ポートフォリオの運用研修講座

聖徳大学 3号館
8/25～12/15
(10:15～12:15)

【講座内容】 講座の半分以上を「実習・参加型」の形態として、単なる“座学”ではなく、具体的な教室活動として教授法や指導手順を実践的に学びます。CEFRの提唱するポートフォリオという「評価方法」のうち、授業内容を学習者が確認する「振り返りシート」を活用する手法について研修するのが今回の研修講座のテーマです。

【募集人員】 30名（申し込み多数の場合には、書類選考をおこなうこともあります）。

【応募資格】 地域でのボランティア日本語教育に2年以上従事している方。また、これまで日本語指導をしてきた経験を踏まえ、外国人の生活行動を支えるCan-do重視の日本語指導法に関心のある方。

【参加費】 無料（ただし、初回に 配付物印刷実費 3,000 円をお支払い下さい）

【応募方法】 封筒に別紙の申込用紙（必要事項記入）と返信用封筒（80 円切手を添付し、受取人住所氏名を明記のこと）を入れ、下記宛先にお申し込みください。

申込書・スケジュール表はこちらからダウンロードできます
<http://www.seitoku.ac.jp/kenkyuiyo/gengo/index.html>
(宛先) 〒271-8555
千葉県松戸市岩瀬 550 聖徳大学知財戦略課 日本語教育研修講座係
(※切) 平成 24 年 8 月 8 日(水) 当日必着
(お問い合わせ) 聖徳大学 Tel. 047 (365) 1111 (大代) 知財戦略課
メールアドレス chizai@seitoku.ac.jp
※8 月 18 日(土) 頃までに、受講の可否を、折り返し通知いたします。

【講師】 北村 弘明(聖徳大学言語文化研究所教授)
嶋田 和子(アクラス日本語教育研究所代表理事)
吉田 聖子(日本語教育学会 人材育成プロジェクト・コーディネーター)
金子 広幸(元日本大学講師)

聖徳大学言語文化研究所

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年8月25日 10:15～12:15	2時間	34人	日本(34人)	(オリエンテーション)地域日本語教育と「評価」活動	ポートフォリオという「評価方法」のうち、「振り返りシート」を活用する手法と意義を中心に研修講座のテーマについて概説した。
2	平成24年9月6日 10:15～12:15	2時間	29人	日本(29人)	Can-do型授業の実際と留意点	Can-do型授業の目的とボランティア日本語教室での運用について話し合った。スキット作成については簡単な模擬を実施した。
3	平成24年9月13日 10:15～12:15	2時間	30人	日本(30人)	Can-do型授業を体験する	前回のCan-do型授業の概説に基づき、実際の展開例を模擬授業として示し、感想を述べ合った。
4	平成24年9月15日 10:15～12:15	2時間	33人	日本(33人)	Can-do-statementsとポートフォリオ	CEFRの提唱するポートフォリオという「評価方法」が、語学教育にどのように有用なのかを、特にボランティア日本語教室の現実と関連させて研修した。
5	平成24年9月29日 10:15～12:15	2時間	35人	日本(35人)	「学習者の運用力を伸ばす」ヒント&ポイント	教師の学習者に対する接し方の差が、学習者の語学運用力に大きく作用する点について、OPIの実施報告を例に体験し、話し合った。
6	平成24年10月6日 10:15～12:15	2時間	33人	日本(33人)	「できること」を重視した教材の活用法	学習者が本当に「語りたいこと」をどのように引出し、その表現技能をどのように導けばよいのかを、Can-doという視点から研修した。
7	平成24年10月13日 10:15～12:15	2時間	32人	日本(32人)	CEFRの理念とポートフォリオ	ボランティア日本語教室における指導法が、外国人の生活を支援するためのものとなっているかを、CEFRの理念およびその評価の考え方を再考した。
8	平成24年10月20日 10:15～12:15	2時間	33人	日本(33人)	振り返りシートの意義と作成・運用方法	評価の一つの形態である「振り返りシート」の意義とその形式、運用法などについて実例を示しながら概説し、評価の可能性について話し合った。
9	平成24年10月27日 10:15～12:15	2時間	33人	日本(33人)	振り返りシートをめぐる演習	いくつかの「振り返りシート」のサンプルを扱いながら、それを用いた授業展開例や、留意点、教師へのフィードバックの仕方などを研修した。
10	平成24年11月10日 10:15～12:15	2時間	29人	日本(29人)	文型を現実場面に結び付けるために	どのような授業のテーマ設定がCan-do型授業と言えるのか、具体的な会話スキットの作例を中心に研修した。
11	平成24年11月17日 10:15～12:15	2時間	34人	日本(34人)	次の授業に結び付ける評価とはどんなものか	評価のうち、「形成的評価」の考え方を中心に、次の授業に結び付けていくための評価という視点から、具体的な評価項目の設定の仕方やその運用法を研修。
12	平成24年11月24日 10:15～12:15	2時間	32人	日本(32人)	学習者の評価からフィードバックする教師の評価	「振り返りシート」という評価は、本来、学習者自身によって行われるものであるが、それを授業のあり方や教師の指導法にもフィードバックする具体例を研修。
13	平成24年12月1日 10:15～12:15	2時間	31人	日本(31人)	「対話」を重視した日本語支援とはどんなものか	しばしば見られる日本語指導者の授業意図と、外国人が望んでいる日本語授業とのズレについて、それがどうしておこるのか、どのような留意点が必要か研修。
14	平成24年12月8日 10:15～12:15	2時間	29人	日本(29人)	ポートフォリオと対話型授業の関連について	語学指導は教師の「説明」によってなされるものではなく、それが実践的会話能力ということであれば特に「対話」によってなされるべきであることを話し合った。
15	平成24年12月15日 10:15～12:15	2時間	33人	日本(33人)	(総括)日本語支援の目的と方向性	全講座の総括をおこなうとともに、毎回のレポートによって出された「質問」への回答と補習をおこない、もう一度この講座のテーマについて再確認した。

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

[授業記録]

平成24年度 文化庁日本語教育委託事業
Can-do 型授業におけるポートフォリオの運用研修講座
講座記録用紙

平成24年 9 月 6 日

記録者 油野英子 受講者人数 29 人

写真撮影 10 枚

授業内容 Can-do 型授業の実際と留意点 担当講師名 吉田 聖子 先生

【授業項目／内容】(時系列に沿った授業内容)

①日本語ボランティアになった理由を各自考えて書く

周囲の人と話す。

②地域日本語教室の活動のあり方

知識としての日本語を教えるより、対話を通して「日本語で〇〇ができる」を目指す。

③実践活動の観察記録

活動の目標、活動の記録、満足度、感想の記録をつける。(ボランティアの振り返り)

④言語や言語学習についての考え方

生活者としての外国人にとって日本語習得は最終目標ではなく社会参加するための手段である。

⑤活動方法の例の具体的内容について

タスクワーク、エクササイズの様々な方法の紹介

【受講者の反応】

具体的に考えさせる課題が多く、熱心に参加していた。

講師の質問にも積極的に答える場面が多く見られた。

【授業で特に気付いた点】

TAによる模擬授業が行われたが、それに対する講師による解説、フォローが欲しかった。

【授業の課題／反省点と思われる事項】

特になし

平成 24 年度 文化庁日本語教育委託事業

Can-do 型授業におけるポートフォリオの運用研修講座

講座記録用紙

平成24年 10 月 6 日

記録者 油野 英子

受講者人数 33 人

写真撮影 15 枚

授業内容 「できること」を重視した教材の活用法 担当講師名 嶋田 和子 先生

【授業項目／内容】(時系列に沿った授業内容)

① 「できること」を重視するとは、どういうことか

- ・よくありがちな教室活動を例に、どうすれば Can-do 型活動になるかを考える。
- ・『みんなの日本語』と『できる日本語』を例に、比較・検討する。

② 『できる日本語』4課・6課を使った実際の指導方法

- ・受講者がグループ(3～4人)で指導方法を考え、発表する。
- ・著者である講師が、例を提示。それはあくまでも例であり、教科書、教材は各現場に適した形で、臨機応変に使う。
- ・実際の教室活動であった学習者の発言・作品紹介。

③ 「できること」重視の漢字学習とは

- ・『漢字たまご』を使った具体的な指導方法。

【受講者の反応】

- ・グループの話し合いでは、講師も感心するほど活気があった。
- ・教科書を使っの具体的な指導方法に、大いに興味関心があるようだった。

【授業で特に気付いた点】

- ・当講座の受講者は、“Can-do 型授業”に関心のあるのは確かであるが、今回の実践的、具体的な指導方法に、より関心があることが表れていた。

【授業の課題／反省点と思われる事項】

- ・携帯電話の着信音が気になるとの指摘があった。

平成 24 年度 文化庁日本語教育委託事業

Can-do 型授業におけるポートフォリオの運用研修講座

講 座 記 録 用 紙

平成24年 10 月 20 日

記録者 油野英子

受講者人数 33 人

写真撮影 6 枚

授業内容 振り返りシートの意義と作成・運用方法 担当講師名 北村 弘明 先生

【授業項目／内容】(時系列に沿った授業内容)

① 振り返りシートとは

- ・「振り返り」については様々な概念があるが、「ティーチング」から「ラーニング」へという教育の視点転換の下、学習者自身が学んでいることを意識化し、確認していく作業を言う。

- ・「振り返り」による見通し、展望から目的達成のための計画を立てることが可能になる。その際、サスティナビリティのあることが肝要である。

② 振り返りシートの作成例

- ・文化庁日本語教育小委員会による「ポートフォリオ」、小学校英語教育の試案例、「日本語ポートフォリオ」(青木直子作成)についての考察。
- ・松戸「日本語ひろば」と講師作成によるシートで、実際の活用の仕方を解説。

③ 振り返りシートの意義

- ・振り返りシート作成により、学習者だけでなく教師が授業内容を振り返ることになる。

④ “Can-do 型授業”の参考

- ・埼玉県戸田市立新曽小学校での英語授業の TV 放映記録、および松戸「日本語ひろば」の授業風景の一部を観る。

【受講者の反応】

- ・具体的な指導例が示されたことで、より実感を持って受講していたようだった。
- ・受講者から、松戸「日本語ひろば」の見学希望の声があった。

【授業で特に気付いた点】

特になし

【授業の課題／反省点と思われる事項】

特になし

(教室風景の写真)





(10) 目標の達成状況・成果

①毎回の講座終了後に以下の形式による授業レポートを受講者全員に書いてもらい、次回の授業および講座全体の進行に役立てるようにした。



平成 24 年度 文化庁日本語教育委託事業
Can-do 型授業におけるポートフォリオの運用研修講座
(聖徳大学言語文化研究所主催)
レポート用紙

平成24年__月__日

氏名_____

授業内容_____ 担当講師名_____ 先生

【授業中、特に印象に残った点】(できるだけ箇条書きにしてください)

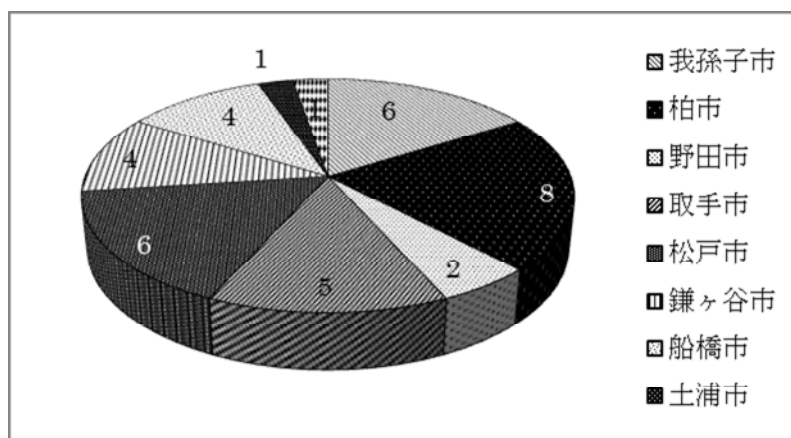
【質問・要望事項】(できるだけ箇条書きにしてください)

②講座終了後に講座についてのアンケートを実施した。

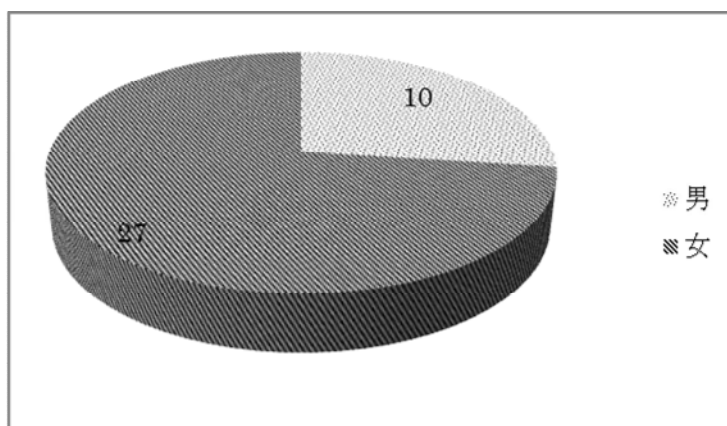
【アンケートの結果】（一部のみ。詳細は別途、添付）

1. お住まいはどちらですか

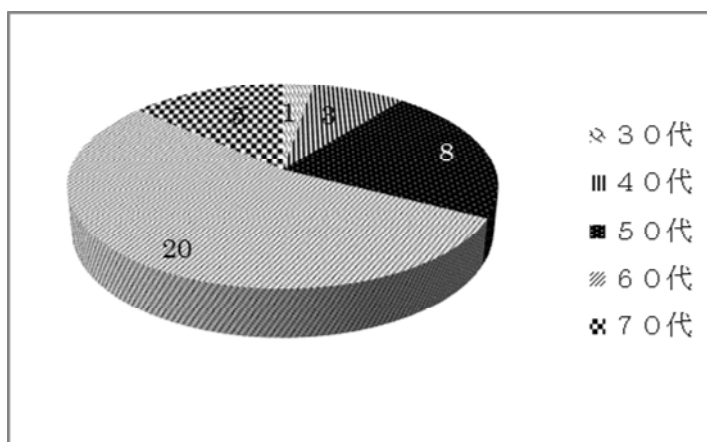
我孫子市	柏市	野田市	取手市	松戸市	鎌ヶ谷市	船橋市	土浦市	守谷市
6	8	2	5	6	4	4	1	1



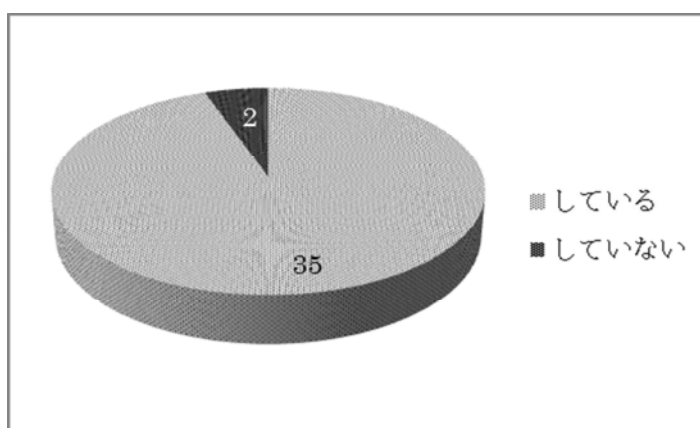
2. 性別



3. 年齢

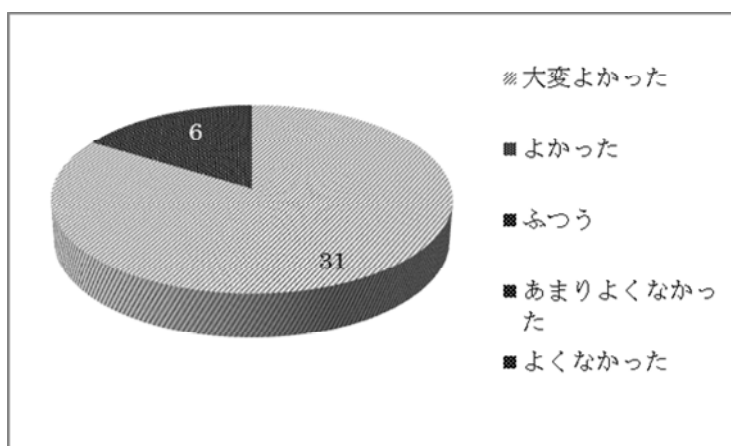


4. 現在、何らかの日本語教育の指導をしていらっしゃいますか？



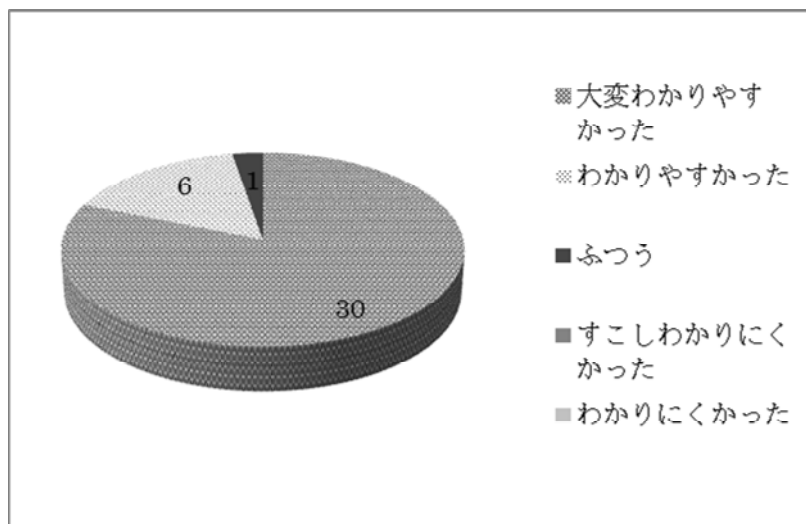
5. 講座全体の印象

大変よかった	よかった	ふつう	あまりよくなかった	よくなかった
31	6	0	0	0



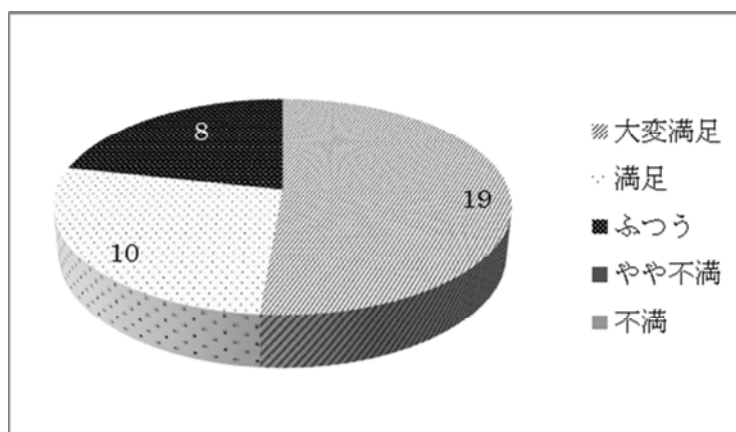
6. 講座の内容

大変わかりやすかった	わかりやすかった	ふつう	すこしわかりにくかった	わかりにくかった
30	6	1	0	0



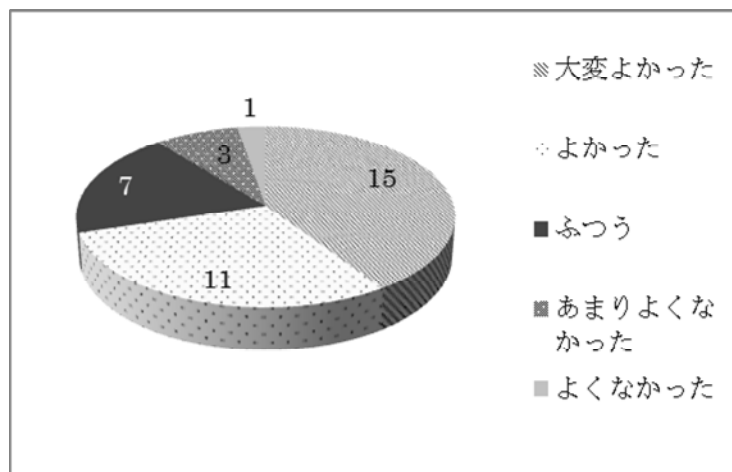
7. 教室の環境・状態

大変満足	満足	ふつう	やや不満	不満
19	10	8	0	0



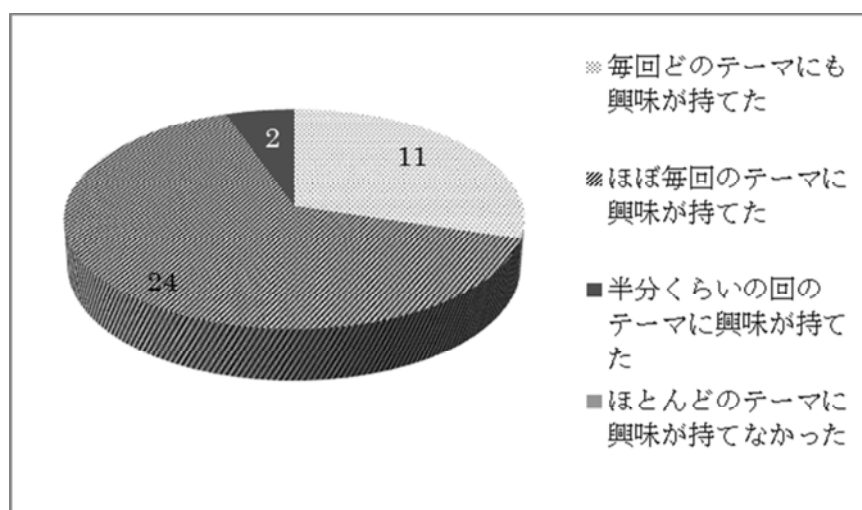
8. 午前中という時間帯の設定

大変よかった	よかった	ふつう	あまりよくなかった	よくなかった
15	11	7	3	1



9. 毎回のテーマについて

毎回どのテーマにも興味を持てた	ほぼ毎回のテーマに興味を持てた	半分くらいの回のテーマに興味を持てた	ほとんどのテーマに興味を持てなかった
11	24	2	0



(11) 改善点について

【取組内容に関して】

本事業の目的は、地域日本語ボランティア教室での指導法の補充、補強をおこなうとともに、日本語ボランティアなどでこれまでほとんどおこなわれてこなかった「学習者の語学力評価」「教師の指導力評価」双方のシステムを構築する方法を検討し、現状にあって無理なく実施できる具体的な施策を提言、確立していくことにある。ここで特に「評価」ということを重視するのは、学習者に自らの理解度や達成感を自覚させるとともに、教師がその結果を直視・分析することで、教師の側も「学習者にどのような能力をつけさせ得たか」を客観的に自省することを企図しているからである。いわば、間接的には教師にとっても振り返りとなることを裏側に託しており、こうした作業を続けていく過程で、地域日本語ボランティア教室における日本語指導の本来の目的(＝外国人の生活支援となり得る日本語能力の養成)が果たされているかどうかを正しく自己確認できる手段ともなせるのではないかという思惑がある。

本研修講座では、この点について、各講師が種々の観点から、「振り返りシート」を中心に「教育における評価の重要性」について受講者に考えてもらったが、講師間で若干、日本語教育における評価の考えの“立ち位置”が異なるところも見られ、そのことが受講者に多少の困惑を与えてしまった部分も生じることがあった。

今後は、講師間における意見交換や講座の指針を明確化する話し合いを十分に実施することが求められる。

【実施体制に関して】

運営委員を中心に、聖徳大学言語文化研究所の JSL 児童教育研究プロジェクト研究員および大学事務局・知財戦略課職員らの助力を得て、講座の運営は問題なく、滞りなく実施することができた。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称 Can-do 型授業を導き、その効果を確認する教材

(2) 対象

来日後、短期間しか経ていない地域在住の外国人(原則として 6 ヶ月未満。国籍・年齢は問わない)に対するもの

(3) 目的・目標

① Can-do 型授業の本時のポイントと授業活動の流れを明示する教材を作成する(教師用・学習者配付用)。

② 授業の終わりに、本時でおこなった学習の要点とその成果を自己評価できる振り返りシートを作成する。

③ 学習者の振り返りシートを吟味することによって、教師も間接的に評価されるような

様式を工夫する。

(4) 構成

Can-do 型授業(形式的な文型の一般的意味を教えるのではなく、ある行為を実現するためにどのようなフレーズを用いたらよいのかを、そこに埋め込まれた文型と共に教える)を展開するのに役立つ教材作り。授業終了時に実施する本時の評価のための「振り返りシート」を含める。

- ①場面設定を明示するための絵パネル
- ②教師のシミュレーション会話を記した文例パネル
- ③語彙習得のための絵パネル・文字カード
- ④練習用絵パネル
- ⑤振り返りシート

(5) 使い方

場面提示(絵パネル) → 会話の場面を明示するために大きめの絵パネルを掲示

活動観察(教師のシミュレーション文例パネル) → 教師がシミュレーションした会話の文字パネルを掲示

語彙習得(絵パネル・文字カード) → 導入新出単語の意味・文字を掲示

場面設定用の補助具 → 場面設定にリアリティを持たせるための補助具など

練習用絵パネル → 練習用の場面設定や手順を掲示

応用(発展)練習用パネル → 応用応用(発展)練習の場面設定や手順を掲示

振り返りシート → 授業終了後に「振り返りシート」に沿って理解度の評価をおこなう

(6) 具体的な活用例

※ ここでは、本事業およびこの教材作成が目的とした「Can-do 型授業の効果を確認する教材」＝「振り返りシート」の扱いをめぐる問題を中心に述べる。

これまで、各種語学教育の中で作成されてきた「振り返りシート」の例は、まず学習者自身に振り返らせる形式をとっているが、自分でシートに書き込む方式だということに加えて、その求める内容も高度な言語レベルを必要とするものが多い。したがって、イメージとしては参考にはなるが、実際の運用は日本語ボランティア教室では非現実的である。これらのシートに自力で書き込むことが出来るのは、母語か中級後半の日本語によらないと無理がある。

これらの問題を踏まえて、現実的で実益のある振り返りシートの形式と運用法を試作する必要がある。シートだけを学習者に配付しただけではだめで、それをどのように運用していくかは、教師の指導にかかっている。また、チェック形式の多様さと内容の妥当性についても留意する必要がある。

具体的な運用としては

- ① 発音のチェックやキー・フレーズの定着度などについては、教師がそれを指示して、発話させたり、発話内容を選ばせたりする。この場合、その評価については教師がシートにレベルをマークする。
- ② ある程度、シートの内容をパターン化して、学習者が「何について、どのように答えればよいのか」を慣れさせていく。

以上の点に留意して作成された初級者用「振り返りシート」の例

日本語教室 振り返りシート

(ボランティア教室用の試作) 20 年 月 日

なまえ

ふりかえり (1) 発音できた!
 キー・フレーズ ①「すみません、新宿に行きたいんですが……」
 ②「すみません、この電車は上野に行きますか?」
 ③「東京行きは、何番線ですか?」

ふりかえり (2) 言えた!
 聞きたいこと ① (〇〇に行きたい。行き方がわからない)→
 ② (どの電車? わからない)→

ふりかえり (3) 覚えた!
 発音された単語 ① () ② () ③ () ④ () ⑤ ()







A	B	C	D	E
				

ふりかえり (4) 覚えた!
 発音されたのは? ① () ② () ③ () ④ () ⑤ ()

A	B	C	D	E
電 車	駅	一 番	西 口	改 札



♣ 先生のコメント

発音がとてもうくなりました。
 「さしすせそ」の発音を練習してください。
 もう少し、感情をこめて言いましょう。

【「振り返りシート」に関して】

- ① 教師が適切な内容・形式で作成して授業と連動させる「振り返りシート」での評価をポートフォリオ評価でも、一つの大きな柱としていくことが現実的であり、効果的であると思われる。
- ② 学習者の評価は、即、教師の指導評価に反映する。教師の授業改善のための鏡となることが期待される。
- ③ 振り返りシートの意義・扱い方については、以下の項目が挙げられる。
 - ・ 教師側というよりは、学習者自身が管理する学習経験、学習成果、成果物の記録である。
 - ・ 数値的に測定可能な能力のみを測るという標準化されたテストの限界に対して、現実の文脈の中での正確な課題達成の能力を、その過程の中で評価することが可能である。
 - ・ ポートフォリオを媒介にして、学習者・教師などが話し合え、内省的(振り返り)・自律的な学習能力の養成につながる。
 - ・ 学習者は知識の単なる受容者ではなく、社会的活動・生活を通じて知識を構成する主体であるとする構成主義(constructivism)の学習理論に基づいている。
 - ・ 背景にある理念「ティーチング」から「ラーニングへ」(学習者中心教育)
「教師が何を教えるか」から「学習者が何を学びとるか」への視点の転換
 - ・ 学習者自身が学びを意識化し、確認していく作業。

(7) 成果物の添付

作成された教材は別途 添付。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

- ① 外国人の生活行動から離れた形式的文法説明に終始せず、Can-do の理念を柱とした実践的な指導法を研修する。
- ② ポートフォリオの概念のうち、学習者の評価とともに、それによって教師の指導力をも評価し得るシステムを構築する方法を検討し、地域日本語教室に広く提言していく。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

全事業、3つの取組を終えた結果を、上記の事業目的と照らし合わせて眺めると、当初の2つの目的——すなわち、Can-do 型授業の指導法の開発と、ポートフォリオ評価(うち、特に「振り返りシート」)の効果的運用ということについては、両者とも想定以上の成果が得られ、目標はほぼ達成されたと思われる。

「日本語教室担当教師の授業記録および作成教材」「人材養成・研修講座の受講生のアンケート」「教材作成委員による教材整理の報告」などの分析から、こうした傾向が読み取

れ、特に以下の事項については今後の指針につながる重要な項目として確認された。

- ① その団体・組織の目的やポリシーを自省せずに、いきなり「Can-do 型授業をするべきだ」「Can-do 型授業の方が進歩的だ」などと主張するのは自重すべきである。どんな場合も、まず、ある方法を喧伝する場合は、その内容の長所などを主張するより、先に、「その組織の行おうとする目的に正しく合致しているかどうか」を確認する方向で臨むべきである。
- ② Can-do 型授業とは、或る 1 つの特殊な教授法を指すのではない。現実的な生活行動をスムーズに行えるような会話能力を育てられる会話指導は、すべて Can-do 型授業と呼べるものである。それが効果的であるなら、さまざまな指導方法があってよい(本当に効果的な指導なのかは、評価をおこなって確認すること)。
- ③ いくら効果的な指導法であっても、組織の中に「異質物」を持ち込むとき戦略は、単に組織の反発を招くだけでなく、現実を正しく見つめる眼差しを奪ってしまう。「正しさ」などという観念を主張するのではなく、「現実合致しているかどうか、現実的な効力があるかどうか」の吟味が第一。組織構成員の大半から理解・支持を得られなければ、どんなに優れた方法でも絵に描いた餅に終わる。
- ④ より現実的な効力がある指導法に組織全体を向かわせるためには、じっくり時間をかけ、その理由を構成員に理解してもらう努力が必要。「それを教えるくらいなら、もっと先にこれを教えてあげるべき」という具体的な功利性を主張していくのがよい。観念的な主張は、個人の主観に映りやすく、説得力に欠ける。
- ⑤ Can-do 型授業を展開するにしても、ただ教師が説明、指示しているだけでは、知識型、学習塾型の授業と変わらない。学習者にただ「しゃべらせる」のではなく、本当の「コミュニケーション」発話をさせることが肝要である。
- ⑥ Can-do 型授業と銘打っていても、その会話例が似非会話であってはならない。教師の質問の種類や、「共話」なのか「対話」なのかを考える。また、授業全体が、実は教師との「対話」で構成されることが一番理想的な会話授業である。
- ⑦ 単純に「構文型授業」と「Can-do 型授業」との優劣を論じても無意味である。それらの目的と特長(以下の比較対照)をよく踏まえた上で、自分たちの日本語指導の目的と合致するものを選ぶ、という姿勢で臨むべきである。

■再確認としてまとめた「構文型授業」と「Can-do 型授業」との比較対照

	構文型(「文型」理解型)授業	Can-do 型授業
目的	文を作るルール、形式や表面的な意味を教える	生活行動に必要な実践的フレーズの運用法を教える
長所	・文法的ルールを知識として理解できる ・具体的現実場面が必須ではない ・教師が具体的使用法を考える労力が要らない ・積み上げ式学習法で易から難へ進める	・学習者が生活に必要な役立つ表現の使用法を教えることができる ・常に具体的生活場面を想定しているので、学習者に現実感が与えられる

	・練習を代入・置き換えなどにパターン化できる ・パフォーマンスがなくても教師の説明でおこなえる ・文型の集合に体系性を構築できる	・単に「言える」ことが大切なのではなく、その表現を使って或る行動が「できる」という実感を持たせられる ・何をするために発話するのか、ということをいつも意識させるので、コミュニケーション能力が開発される
短所	・表面的知識の学習だけに終わしやすい ・具体的使用法が実感できない ・表面的な意味だけを教えるので、文型のコミュニケーション機能が学べない ・生活行動の何に役立つのか、実感できない ・生活に必要な表現が最初から学べない ・場面のない練習のパターン化は逆に単調で形式なものになる ・教師が学習者のニーズに鈍感になる ・教師が出来合いの構文教科書に沿ってだけ教えるようになり、教科書をこなすことが学習目的の第一義となりやすい	・生活行動に必要とされる自然な例文を想定するのが難しい ・或る文型を先に立てて Can-do の例文を考えようとすると、文型のための不自然な例文になってしまう ・会話例文だけを羅列して、その例文を支える文型を抽出しないと、単なる会話例文集の丸暗記授業になってしまう ・教師の説明型授業では、Can-do 型授業の実施はできない。シミュレーションの演習が必ず必要になる ・授業の終わりに、「振り返り」をしないと、知識の面で学習した事項が確認されにくくなる

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

文化庁『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』では、構文指導型教科書のように「文型」先にありきではなく、外国人の生活行動の調査から始め、それを適切に実現するための会話文例を掲げている。地域日本語ボランティア教室などの目的に合致するよう構成されているので、教師が教案を作成する際には、最初にあたるべき拠り所となった。特に、生活行動の分類については、このような調査が他に見当たらない点、特に貴重なデータである。

また、「生活上の行為」の大分類「01 健康・安全に暮らす／ 02 住居を確保・維持する／ 03 消費活動を行う／ 04 目的地に移動する／ 05 子育て・教育を行う／ 06 働く／ 07 人とのかかわる／ 08 社会の一員となる／ 09 自身を豊かにする／ 10 情報を収集・発信する」については、外国人の生活行動を考察する際の最も標準的な分類として定着していくと思われる。今回の日本語教室の会話場面設定もこの分類が前提となって作成された。

ただし、そこでの具体的な会話例になると、『カリキュラム案』の中でも、Can-do 型授業としてはたして適切なものか、検討を要するものも散見された。例えば、以下のように下線部の表現の妥当性や、会話での人間関係がよくわからないものなどがある。

【交通事故に遭ったとき、通行人に状況を説明できる】

A1: 助けてください。交通事故です。

B1: どうしたんですか。

A1: その横断歩道で、妻が車にはねられて、意識がないんです。

B1: 救急車を呼びますか。

A1: お願いします。

【隣人や近くの人に、状況説明ができる】

A1: ちょっと、あの人を追いつけてください。

B1: え、どうしたんですか。

A1: バッグを取られたんです。

【食品や飲料水の安全について聞くことができる】

A1: この漬物は、まだ食べられますか。

B1: 賞味期限は一昨日ですが、大丈夫でしょう。

A1: そうですか。

B1: 消費期限でなく賞味期限だから、大丈夫でしょう。

また、「安全を守る」「地域・社会のルール・マナーを守る」の分類で作成された日本語教室での会話例文の中には、当初、以下のようなものがあった。

【安全を守る】

A: Bさん、カギはかけましたか？

B: はい、かけたと思います。

A: そうですか。でも、もう一度、確かめた方がいいですよ。

B: はい、そうします。

【地域・社会のルール・マナーを守る】

A: 燃えるものは、何曜日に出せばいいですか？

B: 月曜日と木曜日ですよ。

A: そうですか。燃えないものは、何曜日に出せばいいですか？

B: 水曜日です。朝の 8 時までに出してください。

A: はい。わかりました。

こうした会話は、一見、いかにも場面に沿った Can-do 型会話のようであるが、実はこれらの言い方は頻繁に必要なものではなく、1 回の情報提供で済むものでもある。

「ある状況下で、繰り返し必要される汎用性のある表現」が Can-do 型会話の要件である点、やはり場面から想定する際には困難な点のようである。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

全授業終了後、各教室の教師がそれぞれの活動経緯について情報交換し、問題意識を共有したことで、教室の枠を超えたより広い視点を得ることができ、教室の活性化につながったとの感想が多かった。同時に、これは裏を返せば、いかに日頃各団体同士のつながりが希薄か、ということでもあり、今後は、地域の SNS 構築などにもより多くの比重をかけるべき、との意見も多く出された。

(5) 改善点、今後の課題について

今回、実施した事業全体については、概ね想定以上の良い結果が得られ、本事業に参画した人々の情熱と意欲にあらためて敬意を表したい。

ただ、現実的な難しさを言うなら、問題はまさにこれからの各地域日本語ボランティア教室での舵の取り方如何と言わざるを得ない部分が大であり、それは組織内部の分裂危機という問題にもある。文化庁の『カリキュラム案』や国際交流基金の「JFスタンダード」など、これら実践的日本語教育の提言が、かえって地域日本語ボランティア教室の内部分断を招いている、との声も一部で上がっている。すなわち、これまでの構文指導用教科書を用いながらの知識説明型授業をしてきた教師たちの中には、実践・実用型会話授業の意義や指導法が正しく理解できず、自分たちのやり方が否定され、不本意にも新しい方法に乗り換えを求められている、と感じている人たちも多いのである。また本当に「文法と単語さえきっちり理解すれば、“会話力”は自ずと付く」と信じ切っている人々も多い。

「正当な指導法」とか「あるべき指導法」というような言い方を威圧的に投げかけるのは、もとより適切なことではない。新しい方向性を強く謳えば、それは自ずと在来の考えを否定・排斥する方向にも響いてしまいがちである。しかし、効果の出ない指導、目的に適っていない方向での指導には、やはりそのことに正しく気づいてもらうことも必須である。

そうであればこそ、今後は、短絡的な「価値」として指導法を論じるのではなく、「目的論的・効果的」な目線で指導法改善の方向に向いてもらわねばならないだろう。

先の「8. 事業に対する評価について」の項でも述べたが、単純に「構文型授業」と「Can-do 型授業」との優劣を論じても無意味であり、そんなつまらないことで内部対立などを生じさせるような結果を招いてはならない。

組織全体が、その本来の日本語教育の目的に合致した活動となっているかどうか、客観的に気づきを与える評価システムの導入などによって、本来の支援の情熱をかき消さない配慮を抱きつつ、どのように新しい歩みを簡易に促せるか、その具体的施策を検討することが、今後のわれわれの課題である。

(6) その他参考資料

Can-do 型授業におけるポートフォリオの運用研修講座アンケート結果

《アンケート項目》

- ①授業中、特に印象に残った点
 - ②良かった点
 - ③要望事項など
 - ④感想・その他
-

① 授業中、特に印象に残った点

- ・ レッスンのテーマと意義を最初に伝えると学習モチベーションが Up するということ。
- ・ どこでどんなふうにするか、機能と場面の確認が大切だと感じた。
- ・ 繰り返し言ってもらふドリルも目的をよく考えながらするように。
- ・ 日本語支援の目的と方向性がわかってきた。
- ・ 所属団体の支援の成り立ち、歴史、目的、これからの方向性を考えたうえで、新しいアプローチ（Can-do 型）をみんなで構築していくことが重要。
- ・ 日本語を通じて外国人の生活支援をすることが第一。日本語を教えることが趣味になってはいけない。
- ・ 外国人の現実生活場面で実践、応用できるものでなくてはいけない。（単なる知識でなく、その表現が使えるか、役立てるか、が大切）
- ・ 効果的であればさまざまな指導法があっても良いが、評価を行って確認が必要。
- ・ 構文型と Can-do 型のどちらの方がいいというのではなく、学習者の目的、ニーズに正しく合いたしている方法を探す。
- ・ 全 15 回、今回のテーマは振り返りシート・評価についてだったのですが、振り返りシートも評価表も学習者もボランティアも必要だということがよくわかった。
- ・ 子どもたちの支援もやっているが、必ず評価表が必要になり、「よくできましたシール」「もう少しがんばりましょうシール」等を、子どもと一緒につけると、子どもなりに自己評価し頑張ってくれる。大人でも同じかなと思ったので日本語教室でもやってみようと思う。
- ・ 語学は知識ではなく使えるか役立つかである。
- ・ 先生からの指示だけで発話するだけではなく自分で練習する時間を持たせることも必要。
- ・ 教えたことが学習者の生活支援になっているか。
- ・ 単に言えるではなく行動ができることが大切。
- ・ 振り返りをして知識として確認することが大切。
- ・ ボランティアの行おうとしている目的に正しく相対している方法で教えることが大事。
- ・ しやべらせるのではなくコミュニケーションさせねばならない。
- ・ 授業の具体的な進め方（最初にトピックを提示、今日やることをハッキリしてから練習

させるまで)：非常に有益だった。

- ・ (文型積み上げ型) 授業と **Can-do** 型授業の長所と短所、「どちらも大切」という捉え方は目的があいまいになってしまう。
- ・ 最終的には(学習者の役に立つ)(その言葉で何かができる)日本語を教えることである。
- ・ 何かをできるようになったと実感してもらう(生活に助けになること)。
- ・ 授業は対話であるべき(コミュニケーションを取りながら)。
- ・ 学習者本位ということ。
- ・ 易行(フタを開けたら難行でした ホントに！)。
- ・ 自分が属する日本語教室の目的をしっかりとっておく。
- ・ 学習者の生活支援になっているか、いつも自省する。
- ・ 構文型授業と **Can-do** 型授業は学ぶ目的が違う。
- ・ 学習者に「しゃべらせる」のではなく「コミュニケーション」になっているか。
- ・ 「リピート」の時に、どういう能力をつけさせる練習か。いくつかの段階で意識すること。
- ・ 「易行」への道は険しく遠い。それ以前に「俺、もろもろ **Starting Over!**」である。
- ・ 日本語の授業は対話型会話が望ましい。
- ・ 今日のトピックを明らかにすることによって、覚えて帰ろうという気持ちになる。
- ・ 練習のさせ方で、一人でしゃべる時間を与えることも大事である。
- ・ 学習者にただ「しゃべらせる」のではなく、「コミュニケーション」させることが肝要。
- ・ しゃべらせることはできても、コミュニケーションさせることができているかどうかははっきりわからない。これからその点をよく見極めた授業を心掛けたいと思う。
- ・ 「日本語を通して外国人の生活を支援する」ことが第一義。それには「**Can-do** 型授業」がより効果的。そこで「振り返りシート」が必要になる。
- ・ 「従来型」からいかに、より効果的なものにするか……。
- ・ 普段「何か足りない」「何か違う」という思いがある。それが何なのか、がまだ判然としない。
- ・ 構文型と **Can-do** 型の違いが何となくわかってきた。でも、「どちらも大切」という捉え方からは、抜け出せないかもしれない。しかしながら、新たな第一歩は踏み出せたと実感している。
- ・ コミュニケーションの取り方の難しさ。
- ・ 学習者のニーズを確認：初級者のニーズはボランティアが決める？
- ・ **Can-do** の講座を始めて受講してとても難しく感じた。
- ・ 何のために何を教える(アドバイスする)のかを常に明確にしておくことを心掛けること。
- ・ 「現実的に良くある場面を設定し、文型を抽出してコミュニケーション機能を学ぶこと

ができる」ような授業をどのように実施するかということ。

- ・ 「学習者に能力が身に付いたと実感を持たせる授業」ができたかという意識を持ちたい。
- ・ 日本語を通して外国人の生活支援が主な目的であることを忘れない。
- ・ 学習者との対話を行う。
- ・ 本時学習の役割とポイントをきちんと見せること。運用の仕方ができるように。
- ・ 声調（表情）から判読できることは多いので表情は大事。
- ・ 会話に社会性を考慮しておくこと。
- ・ Can-do 型授業が効果的であったかどうかは、評価を行って確認できる。 難行→易行（理想として肝に銘ずる）
- ・ 構文型と Can-do 型授業の長短が表記されていたのでわかりやすかった。
- ・ 5 回の講義を拝聴し、体験したことは、わたしにとって良い経験になった。所属している会の良さを確認できたこと、会の目的を改めて皆と話し合ってみたいと思う。
- ・ 文型教科書に出てくる、その文型の表面的な意味（知識）だけで終わらず、どういう時に使うかを示すことが大切。
- ・ 教えたことが学習者の支援になり、生活に役立たなければならないので、シミュレーションで「できる！」と実感させるように。
- ・ 従来のボランティア活動では学習者の評価は完全でないまでもできたが、ボランティアの評価が難しかった。
- ・ Can-do 型の教え方に関わってみて、教師相互の評価（？）少なくとも確認しあえるようになった。
- ・ 地域で活動が続けていく一人のボランティアとして、私も「i + 1」の精神で継続していきたいと思う。
- ・ 教室活動では対話が大切。
- ・ 文型から Can-do 型例文を作るのは、思いのほか難しい。
- ・ 日本語指導は先生の言う「易行」でありたい。
- ・ 授業の初めにトピックを言う（テーマを出す）。
- ・ 学習者のニーズを第 1 に尊重した授業を心掛ける。
- ・ 学習者に「コミュニケーション」をさせる。
- ・ 対話型授業が大切だということ。
- ・ 生活に役立つ言い回しを教える。
- ・ 団体の目的やポリシーを自省し、話し合いを深めること（近日中にミーティングで話し合う予定）。
- ・ 構文型と Can-do 型授業の長所・短所を明確に理解して整理して考えること。
- ・ 学習者との対話の積み重ねが重要（教師がしゃべりすぎないこと）。
- ・ 助詞（例）「よ」形式的でなく現実的な対話文型として生きる。
- ・ 使い方を見せる。（やって見せる）……丁寧に意味を提示する文型、ポイント、表情（感

づかせる) →発展につながる。

- 今日まで Can-do 型授業は教授法の一つだと考えていた。
- 今日いただいた資料は大変参考になった。
- ボランティア組織の目的・理念を常に意識・確認して活動するべきである。
- 日本語ボランティアは、本当に難行ではなく、だれでも参加できる易行であるべきだが……
- 「難行」から「易行」への指導法への関心が強まった（でも身につけられるだろうか）。
- 「日本語を教える」ことを使って対話をする。→「対話」とはキャッチボール、日本人同士でも大切。
- 「発音」だけでなく「表情」も大切。→確かに日本人でも無表情で言われたら、何だかわからない。
- 「構文型授業」と「Can-do 型授業」は目的の異なる学習領域。→どんなものでも長所・短所があり、目的によって使い分けるのが大事。
- Can-do 型授業、構文型授業の長所・短所を理解して学習者のニーズにこたえる授業を行う指針にしたい。
- 「振り返りシート」を工夫していきたい。
- 日本語教室は「外国人といっしょに楽しむ会」であるべき。
- 何事も為す以上は、本義を見失わないこと。
- 日本語指導とは何をするのか、日本語ボランティアとは何なのか等、常に原点に戻り、考え、行動すること。
- 易行——無理のない研修と行動で本義を為すということか。
- 4名の講師のエネルギーな講座や内容もさるものの、ご本人の姿勢に感銘を受けた。
- 指導手順。フォーカスとモチベーションの大切さと有益性。
- 練習のさせ方。何の能力を身につけさせたいのか、教師が意識してやらせることが大切だということ。
- 構文型授業と Can-do 型授業は目的に合わせて使いこなすこと。
- 授業全体が、実は教師との「対話」で構成されることが一番理想的な会話授業である。
- 学習者のニーズを第一に尊重した授業をする。
- ボランティア日本語教室の目的をもう一度自省することが大事。
- Can-do 型授業は、教師と学習者の「対話」で行われるべき。
- 「構文型授業」と「Can-do 型授業」は目的の異なる学習領域である。
- 日本語支援に対話を重視した要素を入れていきたいが、文法積み上げをベースに活動中の多くのボランティアに理解してもらって、徹底していくことは難しい。（今後の課題）
- 構文型授業と Can-do 型授業、どちらを優先するかは日本語を教える目的で必然的に選ばれる。
- 本当に効果的な指導なのかは、評価を行って確認することが大切。これはよくわかるが、

客観的に評価することの難しさも感じる。

- ・ 支援の中で「ことばを教える」ことはとても重要。
- ・ 日本語ボランティア活動は易行であるべき。
- ・ Can-do 型授業における練習のさせ方。何回も教えていただきたい。
- ・ 振り返りシートの目的。現在自身が目的に合った使い方をしているか反省。
- ・ 外国人の生活支援になる教え方とは。
- ・ 自分たちがどんな目的でどのような日本語を教えようとしている団体なのか、もう一度確認すること。
- ・ 組織の目的に合った考え方になっているか。
- ・ 現実的な効力がある指導法を理解してもらう努力が必要。
- ・ 汎用性・行動が伴う言葉を！
- ・ ニーズは変化するもの。その時々を確認することが大切だということ。
- ・ 「外国で言葉が通じない不安」……思い出した。
- ・ 自分の授業が本当に「学習者の生活支援」になっているか？

② 良かった点

- ・ Can-do 型授業について具体的にわかってきた。
- ・ OPI や対話についてもわかって良かった。
- ・ 5 回の講義を続けて参加できたこと。
- ・ 受講し、自分の未熟さと日本語（ボランティア）支援活動の奥の深さを痛感した。
- ・ AIRA で初めて日本語教師の講座を受けた。当時の新鮮な気持ちが徐々に悪い方へ傾いていたことを認識できて良かった。
- ・ Can-do 型についてわずかな知識しかなかった。幸いにして、この授業である程度勉強することができた。
- ・ Can-do 型授業（文化庁）の教材を作り、実践をし、この講座で確認できたことも意義があった。
- ・ Can-do 型授業について少し理解できるようになった。
- ・ Can-do 型授業の具体的な練習展開を教えていただいたこと。
- ・ Can-do 型授業は（現場は「みんなの日本語」型）生活する外国人にとって大切だと再認識できた。
- ・ OPI のことを初めて知り、秋田の現状など具体的に知れてよかった。
- ・ 「Question」の 5 つのタイプ——意識して使うようにしたい。
- ・ 「振り返りシート」がどんなもので、どう使うかがわかった。
- ・ いかに学習者中心、生活支援の日本語支援でなければいけないということがよくわかった。

- ・ いつもの確認——日本語ボランティアは何をするのか、日本語支援の目的は何かということの確認がとても大切だと思った。
- ・ この講座に参加でき、数多くの示唆をいただいて目が開かれた。英語の「コミュニケーション重視」の教育でも、かなりの実現を見たのは今世紀に入ってから。Can-do 型授業を進めていく間には、旧来の＜先生中心の講義型授業＞は学校教育の中でなかなか消えていかないであろう。＜地域日本語教室＞に携わる先生方の御健闘に期待するところ大である。Think globally, Act locally.『グローカル』な言語教育観を積極的に進めていきたいと痛感している。
- ・ さまざまな立場の講師のお話が伺えたのがとても良かった。
- ・ 日本語を教える目的——授業——振り返り、と体系だって良かった。
- ・ ビデオなど、実際の場面を見せていただくとわかりやすくて良かった。教室活動のヒントが多く、頭の整理ができて良かった。
- ・ ボランティアの知り合いが増えて心強く思う。
- ・ ポートフォリオが学校教育現場で一般的に使われていることを初め、初めて知ることが沢山あった。
- ・ ポートフォリオについて理解できた。
- ・ ポートフォリオ振り返りシート、学習者、教師の評価等を知り、運用方法を知ったこと。
- ・ ワークシートや振り返りシートの具体例が学べて助かった。
- ・ 違った立場、ご意見の先生の話聞き事ができ有益だった。
- ・ 何のために日本語を教えるのかについて改めて考えさせられたこと。
- ・ 何人もの先生方から異なる視点、概念で Can-do 型授業への理解が深められたこと。
- ・ 改めて自分が行っている活動を振り返ることができた。これからの自分の活動を考える機会となった。
- ・ 皆さんの質問に丁寧に答えて下さって、ボランティアの疑問点とその答えがわかって良かった。
- ・ 教授法（Can-do）が理解できなかったが、法が判ったこと。
- ・ 今までなんとなくしか理解できなかった Can-do 型授業が今回の講座で非常に明確になった。
- ・ 参加できたお蔭で、松戸の日本語教室の授業を私のみならず所属団体のかなりのメンバーが見ることができた（圧倒されっぱなしでしたが、とても勉強になった）。
- ・ 視野が広がった。
- ・ 自分のやっている子どもたちの評価が、話を聞いて今後も改良しながら進められることに実感できたこと。
- ・ 実際の授業のビデオを見せていただいたこと（臨場感があってわかりやすく、特に漢字クラスに参考になった）。
- ・ 実際の授業のビデオを見られたこと（小学校における英語授業）（日本語学校での漢字

授業)。

- ・ 実際の授業風景のビデオを見られたのは、活動をイメージするよい参考になった。
- ・ 所属している日本語教室のメンバーの素晴らしさを感じることができたこと (Can-do 型授業をやってみて)。
- ・ 振り返りシートの目的、作り方が参考になった。
- ・ 他地域の団体の方々と情報交換やご縁ができ、今後につながりを持てそうで、有難いと思っている。
- ・ 多彩な講師の先生方の、いろいろなアプローチの仕方を聴くことができ、大変有意義であった。
- ・ 地域に戻った時に、とても役に立ちそうなことが多く、少しずつ実行していこうと思っている。
- ・ 同じテーマの内容を、複数の講師が少し違う立場で説明してくださったこと。
- ・ 日本語ボランティアの本来目指すべき目的を強く意識できた。
- ・ 日本語教育について深く考えさせていただいた。
- ・ 日本語教育の最新の動向を学べたこと。
- ・ 日本語指導に関する専門的な話が聞けたこと。
- ・ 複数の先生方から視点の違った授業が受けられたこと。
- ・ 本当に会の目的が外国人の生活支援になっているのか再考、確認する必要性も感じた。

③ 要望事項など

- ・ Can-do 型に生かせる「文型の持つ機能」を、もっとたくさんの具体例として聞きたかった。
- ・ Can-do 型の授業の練習の仕方をもっとお願いしたい。
- ・ Can-do 型授業のモデル例文集のようなものが欲しい。
- ・ Can-do 型授業の映像をもう少し見てみたかった。
- ・ Can-do 型授業の具体例を挙げて構文型授業との違いを見せてほしかった。
- ・ 「振り返りシート」の運用をもう少しやって欲しかった。
- ・ 「振り返りシート」をもっと多く見せていただきたかった。
- ・ すぐ役立つ内容として、模擬授業等を講座の中に入れていただくと有難いと思った。
- ・ もう少し受講生の話し合いの時間があると良かった。
- ・ もう少し例文を多く出してほしかった。
- ・ ポートフォリオの運用についてももう少し知りたかった。
- ・ ポートフォリオの実践的な活用方法を詳しく教えて欲しかった。
- ・ ワークショップ型で他の方々と交流したかった。
- ・ 一つの文型を取り上げ、Can-do 型にしたらどのようにするのか。悪い例だけでなく、

- 良い例文をもっと出してほしかった。
- ・ 各地域団体で実践している活動・教え方について知りたかった。（東葛地域だけでなく）
 - ・ 教案、例文集作り （次回希望）
 - ・ 効果的な指導法（易行で ― 来年に期待）
 - ・ 今回、使用教室の形態のためか、受講生同士が対話する機会が少なかったように思う。目的を同じくした者同士で話し合いの場が欲しかった。
 - ・ 私にとっては高度過ぎるところもあった。
 - ・ 次回も先生による Can-do 型授業の模擬授業をぜひお願いしたい。
 - ・ 実際に使用されている Can-do テキストの現物における例を 10 例ほど見ておきたかった。
 - ・ 実際の授業をしてほしかった。
 - ・ 実際の授業風景や模擬授業体験をしてみたいと思った。
 - ・ 実際の授業風景をもっと見たかった。
 - ・ 実践、ワークショップ。
 - ・ 初中級クラスで使える「振り返りシート」を作りたいが苦勞している。もっとアドバイスを！
 - ・ 全くのサバイバル学習者を想定して、スキット等考えてきたが、次回はもう少しレベルの進んだ学習者（ある程度日本での生活は困らないが、よりスムーズに暮らしたい）向けの Can-do 型授業も勉強したい。
 - ・ 「あるべき授業の実践」の具体的改善指導も見せてほしかった。
 - ・ Can-do 型の例文を作ることが難しいことがわかった。先生の言われた「易行」をお願いしたい。
 - ・ Can-do 型授業へのシフトを行って上手くいっている具体例を教えて欲しい。どのような工夫をしているのか、等。
 - ・ Can-do 型授業テキストを早く作って欲しい。

④ 感想・その他

- ・ Can-do 型ポートフォリオなど初めて学ぶことができ、とても新鮮で、ためになった。
- ・ Can-do 型授業の実際例（模擬授業）を見せてほしい。
- ・ Can-do 型授業へのシフトを行って上手くいっている具体例を教えて欲しい。どのような工夫をしているのか、等。
- ・ Can-do 型授業をするにあたって、スキットやシミュレーションを考える時、「文型」の知識があったほうが絶対よいと思うが、地域でボランティア講師を養成するときに、その兼ね合いが難しい。

- Can-do 例文に文型を入れた例文を考える案が出てこない。何か良い方法はないものだろうか。
- 「Can-do 型」の次年度以降の場面設定はどのようなになるのか。参考にばらばら眺めてみた NHK のテキストも熟慮の様子が伺える。
- 「学習者のニーズ」を引き出すのが難しい。学習者には「日本語が上手になりたい」と答える人が多い。「なんとなく年 2 年通っている」「居場所」という人も多い。「生活はなんとかこなっている」→その次へのステップがつかみ難い。
- 「私達の会の目的は何か」組織が大きいだけに大変だが、もう一度話し合う必要がありそう。
- 「文型→Can-do 型の例文は無理」とのことだが、現状の中で目の前に学びに来ている学習者のニーズに応えられるように周囲の『教え仲間』と協力して模索していきたいと思う。
- 『～ができる』のスキットの中に含まれる『文型』知識も教える側には持ってもらいたいと思うので、そこも養成講座の内容に含んだ方がいいでしょうか。それとも、それをする、初心者は「文型」授業に流れてしまうでしょうか。
- 次回の講座も受講させていただきたい。
- これまで数多く質問してきました。懇切丁寧なご回答を毎回いただき感謝している。
- 昨日実施した私の日本語授業で、日頃、学習者の「助けとなること」を優先に心掛け、授業を進行してきた。しかし、学習者が社会性の関わりの中で、対応に疑問が残る場面に直面した。学習者が第三者に思いを伝達できないもどかしさ(ストレス)を考えると、私自身は指導の手順を反省すべき教師以外の何ものでもない。けれども、本日先生の御講話「本来の目的で判断する」との話を伺って、社会が求めている生活支援が合致、目的に合っているかを自問しながら、ことばにかかわっていく勇気をいただいた。
- 教室同士のネットワーク作りを進めたいと思った。
- ボランティアとしての意識・心構えが変わってきたように思う。私と外国人学習者の目的がより近くなり、お互いが満足できる授業に代わればいいなあと思いました。
- ボランティアのネットワークを作るような講座も期待している（この世界に入って、ボランティアの横の繋がりやの無さにびっくりしているのだ）。
- 会話の場の設定を教室でやり、学習者に理解させるのは大変難しく労も多く誤解も生じやすいと思う。そこで、実際の場面の会話を DVD にして普及させてほしい。それで 100%授業ができるとは思っていないがベースとして活用させていただきたい。授業が効率的になるような気がする。
- 現状の日本語教室活動へどのように生かしていくか、悩み多し！
- 講座の内容が段々具体的になり、受講者の理解も深まっていると思う。来年も開校「易行に期待」を希望する。
- 今後、ボランティア対象の講座だけではなく、日本語教育に関心のある人やボランティ

ア団体を運営するスタッフ等を対象にした講座もぜひ行ってほしい。

- ・ 私は浄土真宗なので先生の言われた日本語教師の「易行」を受けられれば有難い！
- ・ 自身が参加するグループ内で、資金もないので、身内で養成講座を開くとき、**Can-do**型にしていきたいのですが、直説法的な文法はどのように勉強していけば良いのか、まだわからない。
- ・ 実際の例文作りや実際に授業をやってみるなどして、もっと **Can-do** 型授業を実感したい。
- ・ 少し難しいところもありましたが、視野が少し広く持てるようになったような気がする。
- ・ 少しずつでも、**Can-do** 型授業の趣旨を自分の授業に取り入れていきたい。
- ・ 生活支援を目的に日本語教室を作り、地域に合った役立つ教材を自分たちで作成実践する。これ「だけ」のことに「構文型教科書」を採用せざるを得ない悲劇。今までの指導法に接ぎ木せざるを得ない歴史的必然。結果的にずいぶん遠回りの道のりになってしまったようで悲しい。
- ・ 中級クラスの **Can-do** 型構文をどう教えるか全くわからない。一日も早く例文集の作成を希望する。
- ・ 度々、休みをいただいたがとても勉強になった。どれだけ身に付いたかは疑問だが、少しでも学習者が安心・安全に暮らしていけるよう、活かしていきたいと思う。
- ・ 日本語支援の目的、方向性について、地域のボランティアとぜひ共有したいと思う。
- ・ 資料 P2～3 の「日本語支援の目的とボランティア組織としての方向性」の内容がとても為になった。
- ・ 毎回充実した授業で、土曜日が楽しみだった。
- ・ 有意義な授業の数々、ありがとうございました。次回もぜひ受講したい。
- ・ 来年度の「易行」のテーマの講座、期待している。
- ・ 来年度予定されている指導法の難行／易行？についての講座に期待している。